

# 東国文化副読本

～ 古代ぐんまを探検しよう～

東国文化副読本「古代ぐんまを探検しよう」



ぐんまの  
古代の歴史  
を探れ！



ナソがある。フシギがある。  
古代ぐんまの旅へ出発！



〈2021年度版〉



群馬県

群馬県





## はじめに

古墳時代を中心に、現在の関東地方で栄えた文化を「東国文化」といいます。

当時の日本列島は近畿地方が政治・経済・文化の中心地でしたが、その頃の群馬は、ヤマト王権が列島統一のために最も重視した東国の地域で、東日本をリードする先進地域へと成長しました。

群馬が重視された背景には、地理的な優位性がありました。馬による交通が発達し始めた古墳時代、群馬は日本列島の西と東をつなぐ交通の要となります。こうして、ヤマト王権と強く結ばれた群馬には、東アジアの先進技術や文化がいち早く伝来しました。新たに国宝となった綿貫観音山古墳のきらびやかな副葬品の数々も、その交流を示す貴重な文化財です。

また、群馬は、かつて13,000基を超える古墳が存在した「東日本最大の古墳県」であり、埴輪として日本初の国宝となった武人埴輪をはじめ、質・量ともに日本一の「埴輪王国」でもあります。近年、世紀の大発見と言われた「甲を着た古墳人」の発掘などにより、世界的にも希少な「榛名山噴火関連遺跡」も注目を集めています。

この本を読み、数々の遺跡や古墳・埴輪の紹介を通して、古代群馬の果たした大きな役割を知ってもらいたいと思います。そして、皆さんには「ふるさと群馬」の誇りを抱えていただきたいと願っています。



動画



この二次元バーコードを読み込むと動画が見られます。



VR



この二次元バーコードを読み込むとVR動画等が見られます。

## 登場人物紹介



群馬県のマスコット「くんまちゃん」



古代ぐんま探検隊

古代ぐんま探検隊のリーダー!!  
君たちに、特別な任務を委ねる。  
ごご群馬県には、  
ナノとフシギがいっぱいだ!  
我が群馬県にある、  
東国文化の歴史を調べてきてくれ。



おまめハカセ

探検隊にいろいろ教えてくれる  
おまめハカセは、  
「足知無、や?ひことと書かせて?」  
のコーナーで探検隊が知らない  
情報を教えてくれます。

## 目次

- P.01 はじめに  
P.02 この本の使い方  
P.03 目次

## 第1章 古墳めぐんまを探索する

- P.04 1. 東日本最大の古墳めぐんま  
P.06 2. 比べてみよう! 古墳の形と大きさ  
P.08 3. 60センチの石を運搬!?  
P.09 4. いろいろな棺  
P.10 5. ヤマト王権との強い結びつき  
P.12 6. 渡来人がもたらしたものの  
P.14 7. 川の道から陸の道へ  
P.15 8. 新たな国宝誕生!

## 第2章 日本一の埴輪王国ぐんまを探索する

- P.16 1. 埴輪とは  
P.17 2. ぐんまは埴輪王国!?  
P.18 3. 埴輪の種類  
P.20 4. 埴輪から読み解く当時のファッション  
P.22 5. 埴輪が作られた場所  
P.23 6. 埴輪トリビア  
P.25 7. 群馬だけに馬が多かった?

## 第3章 榛名山噴火関連遺跡を探索する

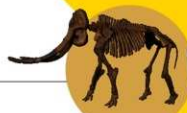
- P.27 1. 榛名山噴火関連遺跡のすこさ  
P.29 2. 新たな歴史を切り開いた群馬の水田遺構

## 第4章 群馬の代表的な史跡～ 繁栄した東国文化～

- P.30 01. 旧石器時代 - 岩宿遺跡  
P.31 02. 縄文時代 - 矢瀬遺跡  
P.32 03. 縄文時代 - 茅野遺跡  
P.33 04. 弥生時代 - 中高瀬観音山遺跡  
05. 弥生時代 - 日高遺跡  
P.34 06. 古墳時代 - 前橋天神山古墳  
P.35 07. 古墳時代 - 中溝・深町遺跡  
P.36 08. 古墳時代 - 白石稲荷山古墳  
P.37 09. 古墳時代 - 太田天神山古墳  
P.38 10. 古墳時代 - お富土山古墳  
P.39 11. 古墳時代 - 保渡田古墳群  
P.40 12. 古墳時代 - 三ツ寺1遺跡  
P.41 13. 古墳時代 - 中飯遺跡  
P.42 14. 古墳時代 - 金井遺跡群  
P.44 15. 古墳時代 - 葉巻二子塚古墳  
P.45 16. 古墳時代 - 大室古墳群  
P.46 17. 古墳時代 - 七島山古墳  
18. 古墳時代 - 伊勢塚古墳  
P.47 19. 古墳時代 - 高塚古墳  
P.48 20. 古墳時代 - 黒井峯遺跡  
P.49 21. 古墳時代 - 総貫観音山古墳  
P.50 22. 古墳時代 - 八幡観音塚古墳  
P.51 23. 古墳時代 - 山王金冠塚古墳  
P.52 24. 古墳時代 - 奈良古墳群  
P.53 25. 古墳時代 - 三津瀧古墳  
P.54 26. 飛鳥時代 - 宝塚山古墳  
P.55 27. 飛鳥時代 - 蛇穴山古墳  
P.56 28. 飛鳥・奈良時代 - 上野三跡  
P.58 29. 飛鳥時代 - 山王興寺跡  
P.59 30. 奈良時代 - 上野園分寺跡

## 資料編

- P.60 年表  
P.62 群馬県全域マップ  
P.64 群馬県エリア別マップ  
P.68 関連施設一覧  
P.70 古墳一覧  
画像提供・参考文献



## 1 東日本最大の古墳県ぐんま



## 古墳とは?

古墳とは、今からおおよそ1700~1300年前の3世紀中頃~7世紀末に、土を盛り上げて造られたお墓のことで、地域を治めた有力者や身分の高い人が葬られた。

古墳には埴輪が並べられたり、埋葬施設に豪華な副葬品が添えられたりすることがある。そのため、単なるお墓ではなく、亡くなった人の生前の権力や財力などを示す意味も込められた政治的なモニュメントでもあったと考えられている。

## 群馬の古墳の3つの特徴

群馬県は、全国屈指の「古墳県」として知られ、東日本最大の太田天神山古墳 (P.37)をはじめ、多くの古墳が存在する。現在県内には約2,000基の古墳が残されているが、開発などで失われてしまったものも含めると、かつては13,000基以上もの古墳があったことが確認されている。



▲上: 鏡象被刀頭大刀 下: 単龍頭大刀  
(藤岡市、白石古墳群平井地区1号古墳)



▲承台付銅鏡  
(高崎市、八幡観音塚古墳)

- 1 大型の前方後円墳の数が多く
- 2 死者を葬る施設 (石室や石棺など) の質が高い
- 3 副葬品が豪華で豊富にある

## 有力豪族を生んだ群馬の風土

大きな古墳は、力のある豪族のお墓と考えられる。群馬県内には大きな古墳が数多くあり、しかもあちこちから古墳群として造られた。これは、大きな勢力を有する豪族がたくさんいたことを示している。古墳時代の群馬県地域は「上毛野国」といわれ、東日本随一の大国であった。

大きな勢力が上毛野国の各地に存在することができた理由として、以下の点が挙げられる。

- 1 自然環境の豊かさ
- 2 大陸からの先進技術
- 3 ヤマト王権との強いつながり

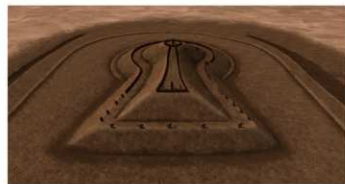
周囲の山々から幾筋もの川が平野部に流れ出て、農業にとって最も大事な肥沃な土壌と豊富な水を供給した。また、山麓や台地部で、木の実や果物、作物が豊かに実った。

また、群馬が繁栄する原動力となる「馬」がたくさんいたことも、この3つの条件があったからといえる。馬について、詳しくは25ページを見てみよう。

【表1】古墳の大ききざらんキング (全国)

No.	古墳名称	所在地	墳丘長 (m)
1	大山古墳 (仁徳陵)	大阪府堺市	486
2	菅田御嶺山古墳 (応神陵)	大阪府羽曳野市	425
3	大塚ミザサイ古墳 (雄略)	大阪府堺市	365
4	遺山古墳	岡山県岡山市	350
5	河内大塚山古墳	大阪府松原市・羽曳野市	335
28	太田天神山古墳	群馬県太田市	210
45	滝澤山古墳	茨城県水戸市	186
49	須岡山古墳	群馬県高崎市	172
52	丹籠寺茶臼山古墳	群馬県太田市	168
62	白石権徳山古墳	群馬県藤岡市	155
65	荒天山古墳	茨城県常陸太田市	151
68	七興山古墳	群馬県藤岡市	150

※墳丘長は新たな計測により変更される場合があります。  
※6位以下は関東地区の古墳を掲載



▲前方後円墳 (VRで再現した綿貫観音山古墳)



▲古墳時代の農作業の様子 (VRで再現した金井東裏遺跡)

## 2 比べてみよう! 古墳の形と大きさ



### 代表的な古墳の形

古墳は、現在は木が生えたりして山のように見えるが、四角い形(方墳)や丸い形(円墳)など、いくつかのタイプがある。

名称と形状	詳細	例
1 <b>前方後円墳</b> 	古墳時代を代表する墳形。後円部に死者を葬る施設が造られることが多い。近畿を中心に東北から九州まで全国的に分布し、巨大古墳に多い。ヤマトと関係の深い朝鮮半島の一部地域でも築かれている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緒貫貴首山古墳(高崎市)</li> <li>● 太田天神山古墳(太田市)</li> <li>● 七興山古墳(藤岡市)</li> <li>● 藤澤二子塚古墳(安中市) など</li> </ul>
2 <b>前方後方墳</b> 	前方後円墳の後円部を方形にしたもの。3～4世紀に比較的多く、全国に分布するが、おもに東日本地方に多く見られる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 元島名将軍塚古墳(高崎市)</li> <li>● 前橋八幡山古墳(前橋市) など</li> </ul>
3 <b>帆立貝式古墳</b> 	前方後円墳のうち、方形の部分が著しく短いもの。円墳に四角い造り出しをつけたとする見方もある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 塚廻り古墳群第4号古墳(太田市)</li> <li>● 女体山古墳(太田市)</li> <li>● 古海原前1号古墳(太田市) など</li> </ul>
4 <b>円墳</b> 	円形の古墳。直径は10m弱から100m超までさまざま。古墳時代全体を通じて日本全国に分布する。5世紀後半からは、主に小型円墳の群集墳が形成される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 草配山古墳(玉村町)</li> <li>● 山上古墳(高崎市)</li> <li>● 虚空蔵塚古墳(渋川市)</li> <li>● 奈良古墳群(沼田市) など</li> </ul>
5 <b>方墳</b> 	墳丘の立体的な形状がピラミッドのような四角錐または四角錐台の古墳。7世紀には前方後円墳に代わる、上位の首長の墳形になった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 蛇穴山古墳(前橋市)</li> <li>● 宝塔山古墳(前橋市)</li> <li>● 中塚古墳(桐生市)</li> <li>● 巖穴山古墳(太田市) など</li> </ul>
6 <b>八角形墳</b> 	墳丘の平面形状が八角形の古墳。天皇のみに許された墳形と思われていたが、近年、地方でも見つかっている。すべて7世紀から8世紀初めに造られており、中国の宇宙観や仏教思想の影響によると考えられている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 三津堂古墳(吉岡町)</li> </ul>

### 【キラリ群馬】

戦前、日本に初めて人が住み始めたのは、新石器時代の縄文時代と考えられていた。これは、縄文時代より前の、旧石器時代(氷河時代)には、赤茶けた火山灰を降り積もらせていたため、とうとう人は住めないと考えられていたからだ。

昭和21年のある日、当時、行商をしながら、考古学の研究をしていた相澤洋洋さんが、この火山灰が降り積もってきた赤土(関東ローム層)の中から、石器のかけらのような破片を見つけた。不思議に思った相澤さんは、その後も根気よく観察を続け、みどり市笠懸町の岩宿遺跡(P.30)の赤土の中から黒曜石で作られた、やり先形の打製石器を

発見した。これが日本で初めて、旧石器時代に入々が住んでいたことを証明する大発見となったのだ。

子どもの頃から考古学に興味を持ち、本を読んで熱心に土器や石器を求め続けたアマチュア考古学者の相澤さんが、日本の歴史を大きくめり替えた瞬間だ。



▲ 関東ローム層(みどり市、岩宿遺跡)



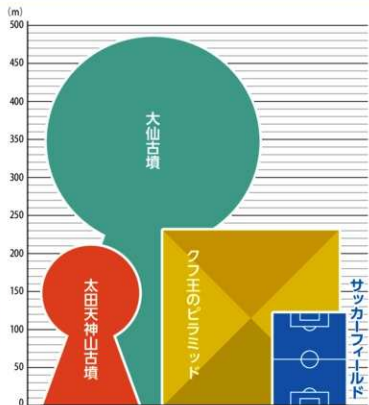
▲ 相澤さんが発見した石器



### 比べてわかる古墳の大きさ



たいせん 大仙古墳(大阪府堺市)	日本最大 【墳長 486m】
おひた 太田天神山古墳	群馬県最大 【墳長 210m】
クフ王のピラミッド	世界最大のピラミッド 【底辺の長さ 230m】
サッカーのフィールド	【長さ 120m、幅 90m】

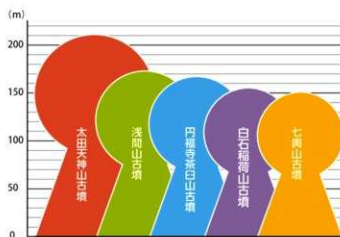


▲古墳以外のものとの大きさ比べ



### 群馬県内の古墳の大きさベスト20

1位	太田天神山古墳(太田市ヶ島町)	210m
2位	浅間山古墳(高崎市倉賀野町)	172m
3位	円福寺茶白山古墳(太田市別所町)	168m
4位	白石磯荷山古墳(藤岡市白石)	155m
5位	七興山古墳(藤岡市上落合)	150m



▲県内の古墳の大きさ比べ

順位	名称	所在地	墳丘長(m)
6	前橋八幡山古墳	前橋市朝倉町	130
7	前橋天神山古墳	前橋市広瀬町	129
8	お富士山古墳	伊勢崎市安塚町	125
9	朝子塚古墳	太田市牛沢町	124
10	大鶴巻古墳	高崎市倉賀野町	123
11	上並榎榎荷山古墳※	高崎市上並榎町	120
12	割地山古墳※	太田市東矢島町	115
12	岩鼻二子山古墳※	高崎市綿貫町	115
14	中二子古墳	前橋市東大室町	111
15	井出二子山古墳	高崎市井出町	108
16	保渡田薬師塚古墳	高崎市保渡田町	105
16	八幡観音塚古墳	高崎市八幡町	105
16	平塚古墳	高崎市八幡町	105
19	天川二子山古墳	前橋市文京町	104
20	鶴山古墳	太田市鳥山上町	102

※…現存していない古墳

## 3 60トンもの石を運搬!?



▲ 納賢観音山古墳石室 (高崎市)



▲ 八幡観音塚古墳石室 (高崎市)

### 大きな石はどこから運んだか

高崎市の綿貫観音山古墳(P.49)は、古墳時代後期の6世紀後半に築かれた墳丘全長97m、高さ9.6mの大型前方後円墳だ。平らだった土地に造られているので、巨大な墳丘のすべてが人工的に造られたわけだ。

後円部の中心には、南西方向に入口を開けた横穴式の石室がある。生前に古墳を造らせた豪族本人が葬られた場所、石室の全長は約12.6m、最大幅約4mもある。石室の天井部に使用された最も大きな石は22トンもあり、それ以外にも10トンを超える石が2つ使用されている。群馬県地域では最大級の石室だ。

石室の側面の壁を造るのに積み上げられた石は、6世紀前半に榛名山が大噴火したときに噴出した角閃石安山岩という石で、これを四角くブロック状に加工して積み上げていく。火山の噴火によって形成されたこの石は柔らかく加工しやすいので選ばれたのだろう。

ところが、綿貫観音山古墳の周囲には、このような大きな石はまったく見あたらない。

利根川まで行けば、榛名山から利根川に流れ出ている石を手に入れることが可能だ。現在の利根川は、綿貫観音山古墳の東方約2kmのどこを流れているが、当時の利根川(現・広瀬川)は、現在の利根川よりさらに東側を流れていたと考えられており、古墳から最も近い場所からでも、数km以上の距離を運んできたことになる。現在の広瀬川周辺から綿貫観音山古墳まで、石を運ぶのに適当な川はないので、おそらく陸路をはるばる運んできたのだと考えられる。

一方、石室の天井に使われた10~22トンもある巨石は牛伏砂岩だ。古墳時代にはまだ岩層から石を直接切り出してくる技術はなかったと考えられているので、岩層から崩れ落ちた石を運んできたと考えられる。これだけ大きなものは、最近では、藤岡市西部の鮎川で採取された可能性が強くなっている。もちろん、当時はパワーショベルやクレーン、大型トラックもなかったので、大変な労力を要したことは間違いない。

さらに、綿貫観音山古墳より少し後の時期に造られた場所の八幡観音塚古墳(P.50)では、なんと約60トンもの巨石が使われた。壁もきめ、ほとんどの石材に巨石が使用されており、ヤマト王権からもたらされた当時最高峰の技術を持った集団が関わったと考えられる。



▲ 10トンの重さを例えるイラスト

▲ 発掘当時の修繕 (大阪府)



▲ 修繕で巨石を運ぶ様子 (大阪府)

## 4 いろいろな棺



▲ 藤族の埋葬施設



▲ 木棺

### 石棺の種類と変遷

古墳に遺体を埋葬する際に使用された棺には、石棺・木棺・陶棺・乾漆棺などがある。そのうち石棺は最も堅牢で密閉性に優れている。

大型の石棺は古墳時代の特色だが、石棺には、大きな石材をくり抜いたものと板状の石材を組み合わせたものがある。

くり抜き式の割竹形石棺と舟形石棺、組み合わせ式の箱形石棺は4世紀後半に現れる。5世紀には組み合わせ式の長持形石棺が近畿地方を中心に広がり、中部九州や山陰・北陸・関東などでは舟形石棺が発達した。6世紀には、近畿・九州・山陽・山陰・東海・北関東(群馬県西部中心)の一部に、地方の特色を備えた独自のくり抜き式や組み合わせ式の家形石棺が盛んに用いられ、7世紀に入っても一部で継続して使用された。

ちなみに、綿貫観音山古墳(P.49)では、棺は用いられておらず、一段高した床に、金の装飾のついた布をかけて埋葬したと推定されている。さらに、鉄の吊り具が見つまっていることから、被葬者を囲むように布の幕が張られていたと考えられている。

### 王者の石棺

石棺の中でも「王者の棺」といわれる非常に格調高い石棺が太田天神山古墳とお富士山古墳で使われた「長持形石棺」であり、東日本ではこの2箇所だけだ。太田天神山古墳の石棺は、残念ながら破片しか残されていないが、お富士山古墳のものは、厚さが10cmもあり、高度な技術で造られていて、近畿地方のものと比較しても遜色ないといわれている。

### 箱形石棺

(組み合わせ式)



4世紀後半~



▲ 画像 40号墳の箱形石棺 (千葉県)

### 舟形石棺

(くり抜き式)



5世紀~



▲ 深渡田八幡塚古墳の舟形石棺 (高崎市)

### 長持形石棺

(組み合わせ式)



5世紀



▲ お富士山古墳の長持形石棺 (伊勢崎市)

### 家形石棺

(くり抜き式・組み合わせ式)



6~7世紀



▲ 宝塔山古墳の家形石棺 (前橋市)

# 5 ヤマト王権との強い結びつき

古墳時代に「上毛野国」と呼ばれた現在の群馬県は、東国文化の中心地として非常に繁栄していた。その理由は第1章-1(P.4~)に詳しく出ているが、平野部の開発と大規模な農業経営を行うために必要な、自然環境と豊富な資源を持っていたことが大きな要因と考えられる。

そうした特徴を最大限に活かして、地域をさらに大きく発展させようとした上毛野国の人々など、東日本に勢力を広げるための強力な拠点を求めていたヤマト王権との利害関係が一致したことが、両者の親密な関係を生み出したと考えられる。

## 最上級のアイテムは鏡

3~4世紀の豪族にとって、そのランクを決める最上級のアイテムは「鏡」であった。「三角縁神獸鏡」は、ヤマト王権との強い絆の証として各地の豪族に配布された鏡の一つと考えられている。東日本からは17枚しか出土していない中、群馬県だけで12枚も出土している。代表的な例は前橋天神山古墳(P.34)で、4世紀の築造当時は東日本最大級の前方後円墳である。そこに眠るのは、東日本屈指の豪族であろう。しかしそれだけでなく、富岡市の北山茶臼山古墳や玉村町の川井稲荷山古墳など、中型古墳でも出土しているところに、ヤマト王権がいかに上毛野国を重視して鏡を与えていたかがうかがえる。



▲三角縁神獸鏡 (玉村町、川井稲荷山古墳)

古代の豪族は、鏡や銅器を贈りあうことで、光栄を誇り、互いに強い関係を築き上げてきたのだよ!



## 古墳づくりに見るヤマト王権との関係

### 【前方後円墳の設計図】

前方後円墳は、ヤマト王権の象徴であり、その分布はヤマト王権の勢力の広がりを示すとされている。形は、最初は細く低かった前方部が徐々に大きくなっていく特徴がある。各地の代表的な大型前方後円墳は、畿内の大王の墓と思われる大型前方後円墳と相似形(形は同じで大きさが違う)であり、同じ設計図を共有していたことがこれまでの研究で推定されるようになった。

群馬県でも、4世紀では東日本最大の浅間山古墳が奈良県の法隆寺山古墳と、5世紀の東日本最大の太田天神山古墳(P.37)は全国第2位の大きさの養田御前山古墳(伊神陵)と、6世紀では全国最大級の七輿山古墳(P.46)は大阪府の今城塚古墳というように、設計図を共有する古墳があることが指摘されている。



▲浅間山古墳 (高崎市)

### 【長持形石棺】

長持形石棺は、畿内では「王者の石棺」といわれ、大王級の古墳で見られないものである。

そんな石棺が、太田天神山古墳とお富士山古墳(P.38)で使われているのだ。石材は地元産を使っているが、石を削って形を作る作業は難しかったため、ヤマト王権が専門の工人を特別に派遣したものだと思われる。

ちなみにこの二つの古墳は、相似形である。



▲長持形石棺 (伊勢崎市、お富士山古墳)

### 【横穴式石室の技術】

6世紀になると安中市の豪瀬二子塚古墳(P.44)や前橋市の前二子古墳(P.45)などで横穴式石室が造られるようになる。

それまでは古墳の頂上に遺体を埋葬する竪穴式の施設だったが、4世紀末に朝鮮半島から横穴式石室が伝わり、まず畿内と北九州で造られた。上毛野国は東日本で最も早く、他の地域より約50年も早く造られている。このことから、上毛野国をどれだけ重視していたかがわかる。



▲豪瀬二子塚古墳石室 (安中市)



▲前二子古墳石室 (前橋市)

さらに重要な技術は、天井にかける巨大石材の運搬である。八幡鏡音塚古墳(P.50)の推定60cmの天井石をはじめ、数十トンもする巨石を修羅(P.8)で運ぶことは容易ではなく、ヤマト王権による技術指導を特別に受けられる関係にあったと想像できる。



▲八幡鏡音塚古墳石室 (高崎市)

## 仏教の影響

7世紀後半の宝塔山古墳(P.54)は、この時期の群馬県地域において最上位の古墳である。一辺約60mの方墳で、石室内に家形石棺が置かれている。この石棺の脚部に「格換間」という仏教建築等に見られる加工がなされている。



▲家形石棺 (前橋市、宝塔山古墳) ※円内が「格換間」加工

当時、畿内ではすでに権威の象徴は古墳づくりよりも寺院建築になっていた。ヤマト王権が新たな思想として広めようとした仏教を、上毛野国の最有力者が古墳の中に表現したことは、時代の変換を知る上で重要である。いち早く仏教を取り入れたことをこのように形として残している地域は少なく、その一つが群馬県である。このことから、ヤマト王権との関係の深さを知ることができる。

## 古墳時代のおとも

奈良時代になっても、七重の塔がそびえる壮大な国分寺(P.59)や八角形の特別な倉庫(P.38)を建てたりするなど、全国68カ国のうちの13国しかない「大國」となって繁栄した「上野国」。古墳時代に引き続いて朝廷との強いつながりをもち、最先端の文化や技術を積極的に取り込んで東国文化をリードした大豪族の姿を、そこに見ることができる。

「大國」は「上野」(群馬)より上の最上級なんだ。



# 6 渡来人がもたらしたもの

3~4世紀を代表する大陸諸国との交流の品は、「鏡」である。高崎市の柴崎蟹沢古墳などから、卑弥呼が中国から賜ったという説もある三角縁神鏡(P.10)が出土している。

その後、4世紀後半頃から中国や朝鮮半島で争いが増えたため、日本に「渡来人」が移り住んだり、日本人が大陸に行ったりしたことなどで、さまざまな文物(品物)が日本にもたらされるようになった。

古墳から出土したさまざまな品物を見ると、当時の東アジア世界(中国大陸・朝鮮半島)と群馬との関係を知ることができる。

## 海を渡ってきた人・物・文化



▲5世紀の東アジア



5世紀になると、優れた金・銀・金銅製の工芸品や装飾品、鉄製の甲・冑などの武器、馬具、須臾などが日本にもたらされるとともに、それらを作る高度な技術も入ってきた。

これらは、朝鮮半島で作られたものを渡来人が持ってきたものほかに、渡来人によって日本国内で作られたものもある。中でも、高度な技術を要する鍛冶や金工などは、ヤマト王権の管理の下で生産が行われた。そこで作られた甲や冑は、ヤマト王権に認められ、親密な関係になった有力豪族のみが手にすることができた貴重品である。群馬県内の古墳からも、それらが数多く出土している。

高崎市の剣崎長壽西遺跡(5世紀前半~中頃)から出土した金製の耳飾りは、朝鮮半島南部(加那地域)を中心に見られる形で、渡来人が身に着けてきたものと考えられている。

高崎市長茅町の下芝谷古墳(5世紀後半)からは、全国で15例しかない貴重な金銅製の飾履(朝鮮半島で王の埋葬時に使う飾りのついたクツ)が出土した。

太田市の鶴山古墳(5世紀中頃)から出土した鉄製の甲や冑は、薄い鉄板を鉄の鉄で留め合わせている。このように、鉄板を薄く伸ばして、鉄を自由に形づくる高度な加工技術は、鉄を作る製鉄技術とは別に、5世紀に日本にもたらされていた。

馬は4世紀末から5世紀初めに朝鮮半島から伝えられた。同時に、乗馬の風習も伝わった。この後、馬を操るための轡や鋸、鞍などさまざまな馬具が古墳に副葬されるようになる。最初のころ使われた馬具は加那地域に似たものが多く、実用性を重視した簡素な作りのもが多かった。甘楽町の西大山遺跡(5世紀後半)では、そうしたものと考えられる轡が発見されている。



▲甲冑(太田市、鶴山古墳)



▲馬具(甘楽町、西大山遺跡)



▲金製耳飾り(高崎市、剣崎長壽西遺跡)



▲飾履(高崎市、下芝谷古墳)

## 光り輝く金工品

5世紀後半以降、日本国内で金銅製(銅に金メッキをしたものや鉄を金銅板で覆ったものなど)の馬具が多えられるようになる。

高崎市の錦貫観音山古墳(P.49)や八幡観音塚古墳(P.50)、前橋市の山王金冠塚古墳(P.51)など、6世紀後半以降に造られた古墳からは、金銅製品や金銀で飾られた馬具など、光り輝く副葬品が多数発見された。

八幡観音塚古墳出土の大刀は、銀の板で飾られた銀装主頭大刀といひ、実用性よりも装飾性、見た目の素晴らしさが優先されたものとなっている。また、仏教の光背(仏の心身から放たれる光を表した)ものに形の似た透かし文様のある金銅製香葉が発見されている。

これらは当時最高水準の工芸技術であり、金銀に輝く馬具や大刀をもつことが権威の象徴とされた。

錦貫観音山古墳からは、王が身につけておられる金銅製付大帯や鉄製の鉄冑(突起付冑)が出土している。馬具は、金銅製の板を巧みに切り抜いた見事な透かし文様の香葉がある。また、花びらのような飾り(步揺)のついた金銅製の飾金具が77個も出土している。これらは、新羅の馬具と共通する特徴をもっている。



▲金銅飾付大帯(高崎市、錦貫観音山古墳)



▲金銅心葉形香葉(高崎市、錦貫観音山古墳)

金銅歩揺付飾金具(高崎市、錦貫観音山古墳)▶



▲心葉形透かし彫り香葉(高崎市、八幡観音塚古墳)



▲鉄冑(突起付冑)(高崎市、錦貫観音山古墳)



▲金銅歩揺付飾金具(高崎市、錦貫観音山古墳)

## 地域に浸透する大陸文化

これらの大型前方後円墳以外にも、中~小型の古墳からも大陸諸国との交流を示す副葬品などが見られる。

前橋市の山王金冠塚古墳から出土した金銅冠冠は全体の形がよくわかる全国でも数少ないものの一つだ。この冠とよく似たものが、韓国の慶尚南道にある梁山夫人塚古墳から出土している。

玉村町の小泉塚1号古墳から発見された刀は、先端の丸い輪の中に鳳凰(中国の想像上の鳥)がデザインされていた。日本国内には同じような刀がないことから、朝鮮半島で作られたものと考えられている。

また、伊勢崎市にある多田山古墳群の12号墳から出土した「唐三彩」の陶枕(箱形の焼き物)も、

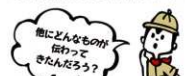
古代中国の王侯貴族の愛好品が持ち込まれたもの。

この陶枕は、副葬品ではなく、残された人が亡くなった人を供養する際に使ったものと考えられている。

## 律令国家の成立

聖徳太子や蘇我氏は、6世紀中頃に大陸から伝えられた仏教を広めるとともに、政治のしくみや学問を積極的に取り入れた。7世紀には「大化の改新」が起こり、新しい国づくりが進められた。8世紀には唐にならって、法律である「大宝律令」(701年)や「平城京」(710年)が作られた。これらには、多くの渡来人が関与していたといわれている。

群馬県には、この頃の国の地方行政や仏教の広まりの様子を知る貴重な手がかりとなる「上野三碑」(P.56)が残っている。これらの石碑にも、群馬に来た渡来人の文化や技術が大きく関わっていたと考えられている。





# 7 川の道から陸の道へ



## 道の役割

道は、人間の歴史とともに始まり、世界中で今日まで私たちのくらしを支え続けてきた。

道には、地域の細い生活道路から地域間を結ぶ太い幹線道路まで、さまざまな人やモノを運ぶ「交通」の役割がある。そして、人や物を介して、文化や技術を伝えてゆく役割もある。



▲古代ローマの道（オーストラリア街道）

道の種類は、「陸の道」だけでなく、「海の道」や「川の道」、現代では「空の道」もある。



## 古代の道と群馬県

日本列島全体をつなぐ広域的な道は、古代の国づくりとともに整備された。ヤマト王権は、各地の豪族とのネットワークを形成するために、人・物・文化などを介して積極的な交流を展開した。

群馬県で古墳時代のはじまりの頃に発達したのは、「川の道」だ。群馬県で古墳文化が栄え始める背景には、東海地方からの人々の移住や技術の導入による平野部の開発

がある。昔の利根川は東京湾に流れ出ていたため、おそらく太平洋から利根川をさかのぼってやってきたものと思われる。利根川は、東国における産業・交通を支えた大動脈だったのだ。

その後、5世紀初め頃までに朝鮮半島から伝わった馬文化（乗馬と生産）は、5世紀後半には群馬県にも伝わった。馬は、軍事・輸送・農耕などの手段としてたいへん貴重であり、その普及とともに陸上交通が重視され、山や川を越えていく「陸の道」が整備されていったのであろう。畿内から見ると群馬県は、東国、そして、広大な関東平野の入口にあたる交通の要地だったのだ。

このように、群馬県は水・陸の道が交わる地理的な特色を持っていて、先進的な技術や文化が早く伝えられた。これが古代東国文化の中心として栄えた群馬県を生み出したのである。



▲馬に乗る盛装男子（伊勢崎市・雷電神社古墳群）



▲利根川（利根川大堰）



▲陸の道（入山峠）



▲舟形木製品（前橋市・元総社寺田道跡跡）

元総社の社名にまで舟形舟形していたということだ



# 8 新たな国宝誕生！

## 群馬県総貫観音山古墳出土品

令和2年3月に、国の文化審議会から答申があり、同年9月に、群馬県に新たな国宝が誕生した。新たに国宝となったのは総貫観音山古墳（P.49）から出土した全ての埴輪と副葬品（総数3,346点）。その全国トップクラスの質と量に加え、国内屈指の高い歴史的価値が評価された。



▲総貫観音山古墳（高崎市）

### 大陸との交流を示す、きらびやかな副葬品！

未盗掘の石室からは、武器や馬具、装身具など、国際色豊かな副葬品が多数発見された。

古墳に眠る王は、財力、政治力があり、外交に積極的だったことが伺える。銅水鏡などの副葬品は朝鮮半島や中国大陸から同タイプのものが見つかっており、大陸との交流を示す貴重な資料となっている。



▲副葬品（高崎市・総貫観音山古墳）

### 儀式を表す美術品のような埴輪群！

右上の埴輪群像は、王様が生前に行っていた儀式の様子を表したものとされている。左が王様、右の2体は巫女、中央の埴輪「三人童女」は強楽器を奏でている。どれも高さが1m以上あって、精巧に作られた一級品の埴輪である。また、「三人童女」は、台上に3人が乗る非常に珍しいもので、国内唯一の埴輪である。この他

にも、古墳の前方形には、武人や武具、馬の埴輪の列があり、古墳に眠る王の武力や財力を示すものとなっている。



▲埴輪群像（高崎市・総貫観音山古墳）



## 【文化財の保護と活用】の巻

文化財は国民共有の財産じゃから、未来の人に歴史をリレーするために、できるだけ良い状態でとめることと、やむを得ず壊さなければならぬ場合は、きちんと調査して記録を伝えること、というルールによって公的に守らなければならぬ。

群馬県の伝統的な文化財保護の動きは、江戸時代から始まっていて、明治時代に初代の群馬県令（今の県知事）となった堀辰善彦は、主要な古墳や上野三牌の保存整備を推し進めたのじゃ。そして、1938年には「上毛古墳総覧」という報告書が作られたのじゃ。この結果、群馬の古墳は総数、大さき、副葬品など、すべての面で東国では抜き出ていることが証明されたのじゃ。

戦後の1950～1960年代は、群馬大学の尾崎喜左衛門教授を中心として、群馬の古墳研究が大きく発展したぞ。そして、1970年代には文化財の保護を主導するため県や市町村に「文化財保護課（係）」が次々と設置され、1990年代になると、学習や普及に活用する動きが盛んになったぞ。

そして、2012年からは、約80年ぶりに群馬の古墳の総合調査が行われ、「群馬県古墳総覧」が作られたのじゃ。その結果、かつて13,000基以上もの古墳があり、現在でも約2,000基の古墳があることが確認されたぞ。君たちにもぜひ、群馬の古墳のことをもっともっと知ってほしいのじゃ。

## 1 埴輪とは



【群馬県立歴史博物館「国宝展示室」】


 埴輪とは？

埴輪とは、古墳の上や周囲に並べられた素焼きの焼き物のことをいう。埴輪の「埴」は粘土、「輪」は輪のように積み上げて作られているという説と、古墳に輪のように並べられたからという説がある。

古墳時代より前の縄文時代にも土偶という焼き物が作られ、よく埴輪と間違われることがあるが、土偶とは出土する場所も作られた目的も異なる。


 何のために作られた？

埴輪は、王の眠る古墳という聖域を守ったり、自慢の馬や武具を並べて権威を示したり、生前行った儀式の様子を表したりするために作られたとされている。



## 埴輪

人面付円筒埴輪  
(前橋市、中二子古墳)



## 土偶

ハート形土偶  
(東吾妻町)



## 【埴輪と土偶の違い】

	埴輪	土偶
時代	古墳時代	縄文時代
出土場所	古墳	集落など
形	円筒形、人、動物、家など	基本的に女性(妊婦の姿も)
目的	古墳という聖域を守ったり、被葬者の権威を示したりするため	安産や豊穡などを祈るため

## 2 ぐんまは埴輪王国？

埴輪というと、当時、政治経済の中心であった近畿地方に多いように思われるが、実は、そこから遠く離れた群馬県の地で盛んに作られ、その圧倒的な質と量の多さから、群馬県は日本一の埴輪県として知られている。なぜそのように呼ばれるのか？


 質の高さが日本一！


国宝及び国指定重要文化財に指定されている埴輪のうち約4割が群馬県から出土している。

群馬では、勢力を持った豪族が、古墳の築造に合わせて独自のルールに基づき多くの埴輪を並べていった。こうして大量の埴輪を作る技術者集団が育ち、細部まで表現された質の高い埴輪を生産していたと考えられている。



▲保原八幡塚古墳 (高崎市)


 数の多さも圧倒的！

6世紀後半になると、全国的には前方後円墳や埴輪があまり作られなくなったが、関東地方では、埴輪の生産が大変盛んになった。

また、群馬では大型の古墳はもちろん、小さな古墳も含め、埴輪が並べられた古墳が非常に多いのが特徴で(推定約2,000基)、たくさんの埴輪が出土している。



◀ 神保下塚2号古墳 (高崎市)の模型

小規模古墳ながら、人物、馬、家、武器など、多種多様な埴輪が並んでいる。


 国宝埴輪が群馬に！

令和2年、群馬県に新たな国宝が誕生しました！国宝に指定されたのは、群馬県立歴史博物館で展示されている、綿貫観音山古墳 (P.49) から出土した全ての埴輪と副葬品だ。

きらびやかな副葬品とともに、美術品のような埴輪群が高く評価された。高さが1m以上あるものも多く、精巧に作られていて、王の墓にふさわしい一級品の埴輪だ。



綿貫観音山古墳出土の埴輪 ▶ (高崎市)

## 【はじめての国宝埴輪は群馬産！】

はじめて国宝に指定された埴輪が、群馬県太田市から出土した「埴甲の武人」であることを知っているかな？ 武人埴輪の全身像で、高さは1.31mあり、6世紀後半に造られた非常に精巧な埴輪だ。甲冑を身にまとい、大刀と弓を持っている。

同じような埴輪は、東東部を中心に複数出土していて、国指定重要文化財となっているものもあるが、その中でも、この武人埴輪は特に細部まで丁寧に表現され、美術的にも評価が高いものである。



埴甲の武人 (太田市) ▶

# 3 埴輪の種類

埴輪の種類は、大きく円筒埴輪と形象埴輪の2つに分けられる。形象埴輪には、家形埴輪、器形埴輪、動物埴輪、人物埴輪などがある。形象埴輪からは、古墳時代の衣服・髪型・武器・建築様式などを知ることができる。

## 円筒埴輪

円筒埴輪と朝顔形埴輪は、弥生時代後期から始まった王の葬礼への供え物を入れる壺と、それをのせる台が進化してきたもので、4〜6世紀の間に作られ続けた埴輪だ。古墳の周りを囲むように並べられ、役割も、古墳という聖域を守るものへと変わった。



▲ 中二子古墳 (前橋市)

円筒埴輪は、筒状のシンプルな形をしている。しかし群馬県には、円筒埴輪に顔がついている。全国で10例ほどしかない非常に珍しいものがある。職人の遊び心なのか、古墳に悪いものを近づけないようにという思いからなのか、一度見たら忘れられないインパクトがある。



① 円筒埴輪 (高崎市、下高瀬少林山古墳)  
② 朝顔形埴輪 (富岡市、下高瀬上之原古墳)  
③ 人面付円筒埴輪 (前橋市、中二子古墳)  
④ 人面付円筒埴輪 (玉村町、小原大塚塚7号古墳)

## 形象埴輪その1

4世紀になると、王の権威を示す道具や死者の魂が宿る家の形を表した埴輪が登場し、どちらも古墳の頂上に置かれた。

### ① 家形埴輪

家形埴輪には、死者の壺が生活するためのものという説と死者が生前に住んでいた居館を表したものであるという説の2通りの考え方があり、なぜつくられたのかはまだはっきりわかっていない。

住居や倉庫、納屋など、様々な形があり、当時の建築様式を知る上で、貴重な資料となっている。



① 家形埴輪 (伊勢崎市、伊勢崎切妻 (みなかみ町、三善赤坂塚白土古墳))  
② 埴輪 切妻家 (伊勢崎市、三善赤坂塚白土古墳)  
③ 家形埴輪 (藤岡市、守井神社敷地跡 1-1 号墳 地区1号古墳)  
④ 家形埴輪 (藤岡市、守井神社敷地跡 1-1 号墳 地区1号古墳)

### ② 器形埴輪

器形埴輪には、盾や甲冑、大刀、取(矢の入れ物)などの武器・武器具のほか、王の権威を示す帽子や髻(従者が王にかざす柄のついたうちわ)などがある。いずれも王の権威を示し、邪悪なものから神聖な古墳を守るものとして置かれたと考えられている。



① 帽子形埴輪 (伊勢崎市、波江今高瀬跡7号墳)  
② 盾形埴輪 (みどり市、国土古墳)  
③ 取形埴輪 (藤岡市、萩原古墳)  
④ 大刀形埴輪 (太田市、塚廻り古墳群第4号古墳)

## 形象埴輪その2

円筒埴輪の出現から約200年後の5世紀中頃になると、動物埴輪と人物埴輪が登場する。それらは1体で存在したのではなく、行列する姿や群像として並べられており、王の葬送儀礼や生前に行った儀式の様子を表していると考えられている。



▲ 保渡八幡塚古墳 (高崎市) で毎年秋に開催される「王の儀式」の再現劇

### ③ 動物埴輪

動物埴輪は、当時いた全ての動物が表現されているのではなく、狩りの場面で人を助ける犬や、獲物となる猪や鹿など、古墳に埋葬された王に関わる動物たちが表現された。

中でも、群馬県内で最も多いのが馬だ。馬の埴輪がなぜたくさん作られたのかについては、P25で見よう。



馬 埴輪 犬 (伊勢崎市、上武土天神山古墳)  
① 猪形埴輪 (高崎市、保渡田窪遺跡)  
② 鹿形埴輪 (高崎市、太子塚古墳)  
③ 馬形埴輪 (高崎市、保渡田八幡塚古墳)

高崎市の保渡田八幡塚古墳 (P39) からは、たくさんの動物埴輪が出土しており、猪狩りや鷹狩り、鶴飼いが行われていたことを示す埴輪もある。



▲ 保渡田八幡塚古墳 (高崎市) 写真手前の区画には、54体の埴輪で7つのシーンが表現されている。

### ④ 人物埴輪

人物埴輪でも、動物埴輪と同じく、王や巫女、武人、琴弾き、狩人、力士、農夫、馬子など、王の行った儀式に関係した人物が作られた。



▲ 納賀親山古墳 (高崎市) 出土の埴輪群像 王が生前に行った儀式の様子を表している。

高崎市の納賀親山古墳 (P49) では、王や巫女などによる王位継承の儀式や、武人や武士、飾り馬と馬子などを並べ、王の所持する財物を誇示するシーンが見られる。

また、保渡田八幡塚古墳でも、同様のシーンが表されている。いずれも、埋葬された王の生前の活躍ぶりや財力の大きさを示すものとなっている。



▲ 小さな古墳ながら充実した埴輪が出土した塚廻り古墳群第4号古墳 (太田市) の埴輪配列



① 大刀を持つ巫女 (太田市、塚廻り古墳群第4号古墳)  
② 琴をひく男子 (高崎市、太子塚古墳)  
③ 盾持ち人 (太田市萩原町)  
④ 両手を腰にあてる振り分け髪の子 (高崎市、納賀親山古墳)

# 4 埴輪から読み解く当時のファッション



## ファッションナブルな古墳人

古墳時代の人々の服装は、群馬県内から数多く出土する人物埴輪からある程度知ることができる。ただし、ほとんどが豪族やその家来たちの姿であり、庶民は少し違っていったのかもしれない。

### ① ヘアスタイル

男性は髪を毛を耳の前のあたりで両方に2つにまどめて紐でくっつけて留めた「みずら」という髪型だった。女性は頭の上で髪を毛を1つにまどめた「島田髷」のように結っていたようで、髪をリボンのような紐や帯、かんざしで留めるときもあったようだ。

#### ア) 身分の低い男性の儀式的髪型 《上げみずら》



▲ 烏子 (高崎市、縄貫観音山古墳)

#### イ) 身分の高い男性の儀式的髪型 《下げみずら》



▲ 烏生の男 (太田市、塚廻り古墳群第4号古墳) ▲ 男子埴輪 (富岡市、富岡5号古墳)

#### ウ) 女性の髪型 《古墳島田》



▲ 正装し装具を掲げる巫女 (高崎市、縄貫観音山古墳) ▲ 女子埴輪 (鹿林市、天待二子古墳)

### ② 服装

男性も女性も、上衣は左前に布を合わせ、その端を紐で留めていた。男性は下衣にズボンのような、比較的ゆったりとした袴をはいていた。祭祀をつかさどる女性は上着の上から、肩から細長い布をたすきのようにかけ、下はスカートのようなものをはいていた。



▲ 男性の服装 (正装)

▲ 女性 (巫女) の服装 (正装)

### ③ アクセサリー

首飾りに使われた勾玉、管玉などの玉類、貝のかたちをまねた腕輪、步揺と言われる金色の飾り、金色の冠、香どといった身に付けるものが出土品からわかっている。耳飾りは、耳たぶにはめ込むような形のものが縄文時代にはあって、弥生時代にはなくなる。古墳時代に、耳たぶにぶら下げるような新しい形のものが朝鮮半島から伝わってきた。こうした装身具のほとんどは、豪族が権威の象徴として身につけたものと思われる。



▲ 珠貝 勾玉 (県内古墳、遺跡出土)

▲ 装身具 石輪 (腕輪) (太田市、矢塚薬師塚古墳)

金製耳飾り ▶ (高崎市、川原田古墳) 銅製長瀬西道跡

▲ 装身具 管玉 (県内古墳、遺跡出土)

### ④ 帽子

古墳時代の男子は、丸みのあるものや、とがったもの、管笠形など、実に様々な形の帽子をかぶっている。帽子は単にファッションアイテムというよりは、身分を表す役割があったようで、帽子だけの埴輪も出土している。



▲ 高冠埴輪 (太田市、オクマン山古墳)

▲ 帽子をかぶる男子 (高崎市、中原1号古墳)

▲ 管笠をかぶる男子 (伊勢崎市、多田山古墳群4号墳)

▲ 唐侍ちん埴輪 (高崎市、太子塚古墳)

### ⑤ 冠

冠は身分の高い男子の被り物で、王冠形や山形など、様々なバリエーションがある。古墳の名前にもなっている山王金冠塚古墳 (P51) からは、非常に精巧な金銅製の冠が出土している。



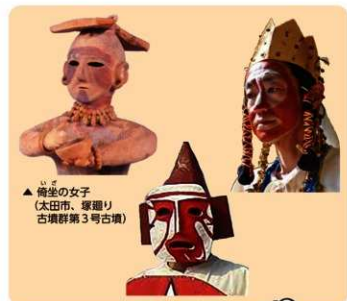
▲ 金銅製冠: 銀元 (前橋市、山王金冠塚古墳)

▲ 盛装男子埴輪 (高崎市八幡原町)

▲ あぐらをかく王 (高崎市、保原田首道跡)

### ⑥ メイク

埴輪を見ると、古墳時代はメイクは女性だけのものではなく、男性もしていて、非常に大胆に塗られている。主に儀式の際にするものだったようだ。色は鉄さびを使った赤色を中心で、白や黒も使われた。



▲ 烏坐の女子 (太田市、塚廻り古墳群第3号古墳)



おまめいちゃん、ひととが言ってる!!

## 【おしゅれは変化する】の巻

縄文時代から、形を変えながら使われ続けてきたアクセサリーは、平安時代中期以降、戦国時代に女性がくし、櫛やかんざしを使用するようになると使われなくなったのじゃ。とりわけ、男性が使用したアクセサリーは、飛鳥時代に役人の公式の場における制服が決められると、プライベートな場でもほとんど使われなくなったのじゃ。平安時代中期以降、女性もアクセサリーを使わなくなるのじゃが、それは女性の髪型が垂髪になり、服装も和風に変化したためと考えられるぞ。この頃からわが国では、アクセサリーを使わなくなったのじゃが、これはわが国独自の習慣で、中国や朝鮮半島では、男女ともにずっと使用されておったそうじゃ。ちなみに、わが国で男性がアクセサリーの使用を再開するのは、飛鳥時代から1,400年後の現代になってからじゃぞ。

## 5 埴輪が作られた場所



### 埴輪はどこで作られたのか

群馬県内で埴輪作りの大きな拠点があつたと考えられるのは、藤岡市と太田市だ。埴輪は古くは野焼きで焼かれていたが、5世紀前半になると須恵器のように専門の工人たちによって窯で焼かれるようになってきた。埴輪専門の窯で焼かれるようになったことで、大量生産が可能になった。

高崎市の保渡田古墳群(P.39)には、藤岡の窯で焼かれた埴輪が多く用いられていたことが分かっている。より古い高崎市の不動山古墳では、埴輪の形や作り方がふそろいで、特定の産地からま



▲本郷埴輪窯址 (藤岡市)

まって埴輪が供給されたわけではないことがわかる。このことから、藤岡市にあった埴輪の生産拠点は、保渡田八幡塚古墳(P.39)の築造を契機に本格的に稼働したのではないかと考えられている。これ以降、藤岡産の埴輪は、藤岡地域を中心に、富岡・安中から前橋・高崎にいたる広い範囲に供給されていた。

6世紀前半に造られた前橋市の中二子古墳(P.45)では、形象埴輪のほとんどは藤岡産の埴輪で占められているが、使用された埴輪の大多数を占める円筒埴輪は必ずしも藤岡産のものに限らない。精巧な形象埴輪のみに藤岡産「ブランド」が選ばれて使われたのだろう。



▲動物埴輪：復元 (高崎市、保渡田八幡塚古墳)

▲人物埴輪：復元 (高崎市、保渡田八幡塚古墳)

### 【古墳時代の焼き物の器】の巻

古墳時代の遺跡からは、生活の身近な道具である土器も多く出土する。

土器は食器や煮炊きの道具として、また貯蔵などにも使用された。古墳時代には、弥生時代からの流れをひく土師器のほかに、新たに須恵器が登場する。

土師器は、700～900℃で焼かれ、もろく出来ており、長期間液体を入れておくと漏れてくる。

一方、須恵器は、ろくろできちんと形を整え、窯室で1000℃以上の還元炎で焼くので、固く緻密に焼きあがっており、液体を長期入れていても漏れるようなことはない。

固くしっかりとした器である須恵器の登場によって、食料の貯蔵もいっそう便利になったことだろう。

須恵器を作る技術は朝鮮半島からもたらされた。古墳時代には、朝鮮半島や中国大陸からさまざまな技術や文物が日本に伝えられた。



▲土師器 (高崎市、下芝五反田遺跡)



▲須恵器 (伊勢崎市、下刈名遺跡)

## 6 埴輪トリビア



### 鶏は特別な存在？

夜明け前にコケコッコと鳴く鶏の姿を見た古墳時代の人は、鶏が鳴くことで太陽を導いたり、あの世とこの世を行き来し、亡くなった人を蘇らせてくれたりする特別な存在と考えたようだ。

そのため、動物埴輪の中で最も早く登場した。置かれた場所も、他の動物と違って古墳の頂上(埋葬された場所の上)だ。



### 猫の埴輪はない？

猫は、最新の研究だと弥生時代にいたと言われているが、埴輪としては見つからない。古墳には、王様の行った狩りの場面に登場する動物や、権威の象徴である馬などは置かれたが、当時存在した全ての動物が埴輪になったわけではなく、ウサギやネズミも作られていない。



▲狩りと犬が猪をならう様子を表した埴輪 (高崎市、保渡田遺跡)



### 馬のチョンマゲ？

馬形埴輪には、写真の埴輪のように、おでこにチョンマゲのようなものがついているが、これは東ねたタテガミを表している。同じように、ピンと立ったしっぽも短く切りそろえられてい様子を表したものだ。

一方で、首の後ろの板のようなタテガミは、切りそろえたのではなく、当時、タテガミが立った「モウコノウマ」という種類の系統の馬がいたためと考えられている。



▲馬形埴輪 (藤岡市、上栗須塚前遺跡)



### 鈴の秘密

古墳時代に人間のパートナーとして活躍した動物には、飼ひ慣らされたことを示す鈴がついている。鷹は尾に、犬や鶏は首につけている。鷹の鈴は、獲物を捕らえに行った時、鷹の場所を知らせるためのものとして、現代の鷹狩りにも使われている。どの動物も、表情から人間に忠実な様子が伝わってくる。



▲鷹匠埴輪 (太田市、オクナム山古墳)

	3世紀	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀
特殊器台					
円筒埴輪					
家					
盾・蓋・羽					
大刀・弓・帽子					
甲冑					
馬持中人					
鶏					
水鳥					
さまざまな人物					
さまざまな動物					



参考文献・『群馬県公式埴輪ガイドブック HANI-本』(群馬県発行)

## 埴輪が土下座!?

塚廻り古墳群第4号古墳(太田市)から出土した埴輪で、土下座をして謝っているような、非常に珍しい男子埴輪がある。この姿は土下座ではなく、つま先を立てた「跪坐」という姿勢で、目の前の王に対して敬礼している様子を表している。王をうつめる表情やビシッとした姿勢からは、その場の緊張感が感じられる。職人の中でも腕のいい名人級の人が作ったものだろう。



後ろ側は長く曲らしているよ

◀ 跪坐の男子  
(太田市、塚廻り古墳群第4号古墳)

## 棺としても使われた!?

埴輪は、古墳に並べることを目的として作られたものだが、遺体を納める棺としても利用された。埴輪棺は、王の埋葬された古墳近くに臣下の者を埋葬するものとして使われることが多く、この太田市の亀山京塚古墳から出土した埴輪棺も、墳丘の裾部分から見つかっている。2本の埴輪棺をつなげて遺体を納めた後、キノコ形の埴輪片で口や穴をふさいで使われたと考えられている。



埴輪がこんな形で使われたとは!

◀ 埴輪棺  
(太田市、亀山京塚古墳)

## 鹿や猪が流血!?

狩りの対象だった鹿や猪を表した埴輪には、流血表現のあるリアルなものがある。下の太子塚古墳(高崎市)から出土した鹿形埴輪にも、よく見ると、狩人が放った鏃(矢の先の部分が)の下に血が満ちている。ちなみに、狩りといっても、王の趣味というわけではなく、神意を占ったり、支配する領域を主張したりするなどの意味があったと考えられている。



◀ 鹿形埴輪  
(高崎市、太子塚古墳)

矢が刺さって痛そうだね!



## 「HANI-本」でさらに詳しく!

群馬の埴輪について、さらに詳しく知りたい人におすすめ!

- B6判 160ページ
- 価格 本体900円+税

※群馬県内一部書店のほか、興行県民センター、ぐんまちゃん家、県立歴史博物館等で購入可能



## 7 群馬だけに馬が多かった?



### 馬の埴輪が多数出土!

群馬県内で出土した馬形埴輪は450例以上といわれ、全国的に見ても非常に豊富な数量を誇る。5世紀中頃の人物・動物埴輪の登場から6世紀末まで、人物埴輪の横には、馬の埴輪が置かれることが多かった。ほかの動物と比較しても馬の埴輪は圧倒的に多く、その数は動物埴輪全体の90%以上を占める。ではなぜ、馬の埴輪はこれほど多く作られたのだろうか?



### 海を渡ってやってきた「馬」

邪馬台国の女王・卑弥呼のことが記されている3世紀頃の中国の歴史書には、日本には馬や牛はいないと記されている。5世紀になって、渡来人とともに大陸から日本にやってきたと考えられており、まずは当時の政治の中心であった近畿地方に伝えられた。

群馬の地域は、この頃すでに全国でも屈指の有力地域だったので、近畿地方に馬が伝わってほどなく、5世紀後半に伝えられたと推測できる。



### なぜ飼育が盛んになった?

奈良・平安時代、群馬の地域はたくさんの馬を生産して中央政府へ献上するまでになる。

この地が国内屈指の馬の生産地となった決め手として以下の点が挙げられる。

- 1 馬の飼育や生産の先進技術を持った渡来系の技術者集団の存在
- 2 馬の飼育に適した土地が広がっていた

群馬の地域では、古墳の副葬品に、櫻や杏葉などの馬具がみられるようになることから、5世紀後半には群馬の地域に馬が普及していたと考えられる。

また、6世紀前半の榛名山の大噴火の際に降った軽石や火山灰に覆われた渋川市の白井北地区にある遺跡からは、無数の馬のひづめ跡が発見され、ここできかなり大規模に馬が飼育されていたことがわかっている。



▲ 古墳時代の馬の放牧跡(渋川市、白井北中道遺跡)



### 馬が特別な存在だった理由

当時の馬は、移動・運搬手段、情報伝達や農耕の労働力として、大変重要かつ貴重なものだった。さらに、古墳時代の各地の首長にとって、馬は財力や富をアピールするために、是非とも手に入れたい特別な価値をもつ動物だったのだ。

古墳時代の群馬の地域には馬がたくさんいて、生産(馬の出生によって数を増やすこと)も盛んに行われた。

古墳時代の群馬の地域は、東国文化の中心地として繁栄を遂げたが、その原動力のひとつには「馬」の存在があったと言える。そして農業生産力の向上と、現代につながる交通の要衝の地であることなどにより、群馬が全国屈指の有力地域になっていった。

## HANI-1グランプリ 群馬の人気はにわを育てよう!

平成30年に本県出土埴輪の人気投票「群馬 HANI-1 グランプリ」が行われ、全国から約6万票もの投票があり、大いに盛り上がった。



今、この時出場した埴輪100体を育てて王様気分でご賞に並べられる「群馬 HANI-1 アプリ」が公開されている。ダウンロードして埴輪について楽しく学ぼう!



ダウンロードはこちら↓



このように、多くの放牧地で馬が飼育され、馬の生産が盛んであったという事実と、財力や権威の象徴であった「馬」の豊かなイメージは、後の「群馬」の名前の由来にもなったといわれている。



▲轡 (高崎市、総貫親白山古墳)

エヘン!  
それもお祭りで使  
って嬉しいかな。



## 馬形埴輪が多い理由

埴輪の作られた目的は「被葬者の生前の活躍ぶりや財力の誇示」であるので、当時最先端の特別な動物だった馬の埴輪は古墳に欠かせない存在とされた。

さらに当時の群馬の地域は、全国屈指の馬の生産地域であったので、数多くの馬形埴輪が並べられたというわけだ。

## 自慢の馬を目立たせたい!

馬形埴輪を見ると、きらびやかな金具や鈴など、たくさんの飾りを身につけていたことがわかる。実際に古墳から出土した馬の飾りにもそうしたものが多く、当時貴重だった馬が目立つよう、目いっぱい飾り立て、それらをキラキラ光らせながら儀式に参加させていたことがわかる。



▲馬形埴輪 (高崎市、神保下藤遺跡1号古墳)



▲馬形埴輪 (前橋市、白藤-P-6号墳)

## きらびやかな馬具

馬具は、本来人が乗るために馬の各所に装着するもので、轡や手綱、鞍など、本来は実用性の高い道具であるが、古墳からは、埴輪で表現されたような、様々な装飾を施した馬具が、被葬者の傍らに添えられた。

古墳における副葬品とは、「被葬者が来世に向かう時に添える敬遠された品々」であるので、このラインナップに馬具が加わることは、馬具が特別な存在であることがわかる。

飾り馬のイメージ▶



おまめいかわ。ひとひと言がせて!!

### 【バラエティ豊かな馬形埴輪】

たくさんの馬が飼育され馬が身近な存在であった群馬県では、飾り馬のほか、鞍をつけない鞍馬や人を背中に乗せた馬など、様々な姿の馬形埴輪が出土している。

人が乗った馬形埴輪は、全国で20例ほどしかない珍しいもので、さらに左下の埴輪のように盛装した人が乗った埴輪は群馬県に2体あるだけだ。埴輪から、威風堂々とした姿で儀式に加わる様子が想像できる。

一方で、右下の埴輪はコロンとしたとても可愛らしい姿をしている。6世紀前半に作られたもので、高さ38cmほどしかなく、県内でもこれほど小さい馬形埴輪は珍しい。素朴な造形だが、乗馬用の鞍や鈴が取り付けられており、仔馬というわけでもないようだ。

▲馬形埴輪 (渋川市、津久田甲子塚古墳)

▲盛装した人が乗る馬形埴輪 (伊勢崎市、雷電神社古墳)

## 第3章

# 榛名山噴火関連遺跡を探検する

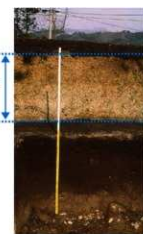
## 1 榛名山噴火関連遺跡のすごさ



▲VRで再現した黒井峯遺跡の様子

上毛三山の一つ榛名山では、6世紀に2度の大噴火があった。麓の広い範囲は、当時の先進技術であった馬生産や金属加工などの姿、人々の生活の様子がそのまま火山灰や軽石に覆われるという奇跡的な地域となった。この地域からは、「全国初」「全国でここだけ」といった大発見が相次いでいる。その大発見とは何か、噴火で埋もれた遺跡からはどんなことがわかるのか、一緒に探検しよう!

白井十二遺跡では軽石が1mも積もったんだよ



▲断面 (渋川市、白井十二遺跡)



## 世紀の大発見続々!

渋川市の黒井峯遺跡 (P-48) は、6世紀中頃に起こった2度目の噴火で埋もれた。2mも積もった軽石の下に当時の集落が残され、普通の遺跡では発掘することができない、住居の屋根や畚の畚などが発見され、古墳時代の集落像を一変させた。

住まいについても様々で、竪穴住居のほか、地面に直接柱を立てて屋根をかけた平地建物、さらに高床の倉庫など、建物を目的によって使い分けていたことがわかった。こうした建物の周りには垣根がめぐらされ、その周りからは庭や畚、それらをつないでいた道や家畜小屋の跡が発見されている。

これらにより、古墳時代の豊かな暮らしが明らかとなった。



▲発掘当時の黒井峯遺跡 (渋川市)



▲軽石でつぶされた竪穴住居 (渋川市、黒井峯遺跡)

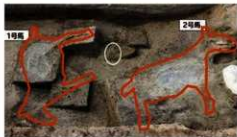
## 2014 「甲を着た古墳人」現る

渋川市の金井遺跡群は、6世紀初頭の1度目の噴火で埋もれた。金井東裏遺跡(P.42)では、副葬品として見つかっただけだった甲が、日本で初めて人が着た状態で見つかり、世紀の大発見として大ニュースになった。

また、金井下新田遺跡(P.42)では、馬の飼育が行われていたことが判明した。



◀ 甲を着た古墳人  
(渋川市、  
金井東裏遺跡)



◀ 馬骨  
(渋川市、  
金井下新田遺跡)

## 全国初の発見！豪族の館跡

高崎市の三ツ寺I遺跡(P.40)や北谷遺跡では、豪族の館と見られる跡が見つかった。深い溝に囲まれた広大な敷地に、柱をたくさん使った大型の建物が整然と配置され、まつりを行った場所や銅や鉄などを使ったさまざまな道具を製作した工房などもあった。

三ツ寺I遺跡は豪族の館として全国初の発見で、その後見つかったものと比べても最大級のものだ。当時の豪族の館は埴輪などから想像するしかなかったが、この発見により、その構造や暮らしの様子がリアルに蘇ることとなった。



▲ 三ツ寺I遺跡の豪族の館復元模型 (高崎市、かみつけの里博物館)

高崎市の保渡田古墳群 (P.39) は、その館の主である豪族の墓と考えられている。



▲ 豪族の墓 (高崎市、保渡田八幡塚古墳)

**世界の噴火関連遺跡**

世界遺産に登録されている噴火関連遺跡としては、西暦79年のペスピオ山の噴火で埋もれたイタリアのポンペイと、西暦600年頃のロマ・カルテラ山の噴火で埋もれたエルサルバドルのホヤ・デ・セレンがあるが、榛名山噴火関連遺跡は、この2つの遺産と比べても、遜色ない価値を有していると考えられる。

火山の噴火は、当時の人々には大変不幸な出来事であったことは間違いない。しかし、噴火により短時間で厚くまとまった火山灰や軽石の下からは、普通の遺跡ではわからないようなさまざまな当時の生活の痕跡を発見することができ、当時のムラの様子や田舎のことを詳しく知ることができる。

▶ ポンペイ遺跡とヴェスヴィオ山

▶ ホヤ・デ・セレン遺跡

## 2 新たな歴史を切り開いた群馬の水田遺構

### 群馬は水田遺跡研究の先進地

群馬県内の平野部では、あちこちで非常に多くの水田跡が発見され、その数は700箇所以上に及んでいる。これは他の地域とは全く比較にならないほど多い。

群馬県で水田遺跡が多いのは、火山の噴火があったためだ。噴火によって広く大量に飛ばされた火山灰や軽石が水田の上に厚く積もってしまったので、農民は耕作をやめざるを得なかった。そしてしばらくして、その上に新しい水田を作り直した。そのため、古い水田の地面はそのまま埋もれ続けていったのだ。しかも、3世紀後半の浅間山の噴火は、群馬の地域に稲作が伝わってきた時期と、6世紀の榛名山の噴火は、さまざまな工夫をして用水や耕作地の開発が進み生産量が増えてきた時期とちょうど重なっている。遺跡と発掘資料の豊富さから群馬県は水田遺跡研究では全国トップクラスと言われている。



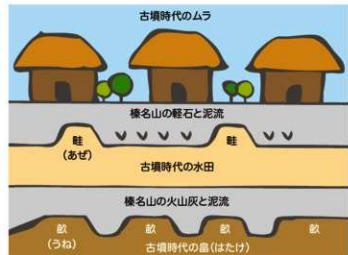
▲ 水田遺構に水を満たした実験 (高崎市、上海桜町北遺跡)

### 小区画の水田を大規模に開発

6世紀頃の水田の区画は、今と違って畳1〜2枚分ほどのとても小さなものだった。稲を効率的に育て、生産力を高めるためにそのようなスタイルが取られたと考えられる。また、水田や畑が作られた範囲が大きく広がっていくのも古墳時代のことだ。渋川市の有馬条里遺跡では、6世紀初期(古墳時代後期)に起こった榛名山の大噴火にともなう火山灰で埋もれた富だだったところが、のちに

水田に作り替えられていることがわかっている。台地の上の土地を水田に作り替えていくには、標高の高い上流から長く水路を引いてこなければならぬため、特に高度な土木技術が必要だが、それが成し遂げられていた。

こうした作業を継続するためには、膨大な労働力が必要だ。古墳時代の群馬には、各地に豊かな経済力と技術力を兼ね備えた豪族のもとで、多くの人が養われていたと考えられる。



▲ 有馬条里遺跡 (渋川市) の断面

### 古墳時代の人口は400万人？

古墳時代の人口を示すような資料はまったく残っていないが、平安時代から戦国時代くらいまで、日本列島の人口はさほど大きな変動はなかったと考えられているので、古墳時代の人口は奈良時代よりはやや少なかったと推定できる。奈良時代の戸籍の一部が東大寺の正倉院に残っており、そこから類推すると8世紀の日本列島にはおよそ440〜450万人くらいの人々が住んでいたと考えられる。



▲ VRで再現した黒井藩遺跡の様子





01

いわじゆく いせき  
**岩宿遺跡** (国)



所在地 みどり市笠懸町阿左美1871ほか  
MAP P.67 A-3  
岩宿博物館  
関連施設 MAP P.67 A-3



みどり市笠懸町にある、旧石器時代の遺跡。1946年(昭和21年)、納豆などの行商を行きながら考古学研究に励んでいた相澤忠洋さんが、約3〜2万年前の地層である「関東ローム層」の中から石器を見つけた。旧石器時代の日本列島は火山活動が盛んで、「その頃の日本に人は住んでいなかった。住めなかった。」と考えられていたので、それをひっくり返す、画期的な大発見であった。最初に学問の常識を打ち破った相澤さんの功績は、いつまでも語り継がれるであろう。

point 1 **関東ローム層**

何十万年もかけて火山灰などが降り積もった地層。関東地方一帯に広がる。「ローム」といわれる黄土色の土から黒色土まで、いくつかの層に分かれる。岩宿ドームでは、そのようすがわかりやすく観察できる。



point 2 **黒曜石**

黒曜石は黒いガラスのような石。強く叩くと鋭く割れるため、石器に適する。群馬県で見つかるのは、長野県産や栃木県産が多い。直接採りに行っていたのか、交換があったのかはまだナゾ。



point 3 **ナウマンゾウ**

旧石器時代の人々は、集団で移動生活をしながらナウマンゾウやオオソウジカなどの大型動物の狩をしていた。ナウマンゾウ1頭で、なんと50人が約1カ月暮らせるという試算もある。



point 4 **西鹿田中島遺跡**

岩宿遺跡の北西約4kmの場所にある。約13000年前の住居跡や木の実などの貯蔵穴、約12000年前の住居跡が見つかった。旧石器時代から縄文時代へうつりかわる様子を伝える大切な遺跡として、国指定史跡になっている。



02

やぜいせき  
**矢瀬遺跡** (国)



所在地 利根郡みなかみ町月夜野下矢瀬  
MAP P.66 B-5  
矢瀬親水公園  
関連施設 MAP P.66 B-5



利根郡みなかみ町月夜野にある、今から3,500〜2,300年前(縄文時代後期〜晩期)の集落遺跡で、利根川に面した高台にある。集落の中央にまつりを行った場所と水場があり、そのどなりにはお墓が作られ、さらにそれらのまわりに住居が広がっている。これらがまだまとめて発見されたため、当時の集落の構造がよくわかり、自然や祖先を大切にした縄文人たちの暮らしぶりをみることできる遺跡として有名である。

現在は矢瀬親水公園として整備され、住居や高床建物のほか、まつりの場に巨木柱などが復元され、四隅袖付炉・石敷・水場も展示されている。

point 1 **水場**

水が湧き出ている場所を掘って、そのまわりを石で囲った水場が作られている。水場からはトチの実やオニグルミなどが大量に出土したことから、あく抜きをする水ざらし場とも考えられている。また、木の実をすりつぶすための石皿も一緒に出ている。ここで縄文クッキーなどを作っていたのだろうか。



point 2 **まつりの場**

まつりの場は、集落の中央にあり、丸太や縦半分に割った巨大な柱を何本も並べて立てている。石数は南北に長く並べられ、北側に大きな3つの石が立てられ、南側に漢字の「目」の形に石が組まれている。



**考えてみよう!**

- ▶ 縄文時代の遺跡や植物の分布から、当時の気候を考えてみよう
- ▶ 縄文人が一番恐れた自然災害(地震・雷・大雨・日照り・噴火など)を考えてみよう

ヒント 「顔うつ形」の頭や、鹿林市や飯倉町では、貝塚が発見されているぞ!

ヒント みんなが一番怖れなものは何かな? それぞれの意見を話し合ってみよう。



# 茅野遺跡



所在地 北群馬郡榛東村長岡  
MAP P.64 A-3  
関連施設 榛東村耳飾り館  
MAP P.64 A-2



【出土品（百餘り・中央下は土偶頭部）】



【土製耳飾りをつけた様子（復元）】

榛東村長岡にある、今から3,500～2,300年前（縄文時代後期～晩期）の大きな集落の遺跡。発掘調査によって、竪穴住居や石組みの墓、湧水を利用した作業場などが見つかった。保存状態がよく、当時の生活がよくわかる。土器や石器のほか、特に注目されたのは577点もの土製の耳飾り。また、白い石に渦巻き模様を彫刻した岩版など、まっぴり関係の遺物もたくさん出土した。

Point



## 耳飾り

この透かし彫りの施された土製耳飾りは、桐生市の千瀬谷戸遺跡などからも同様のデザインのものが出土している。滑車のような形のもが多く、耳たぶに穴をあけてはめ込む。小さいものから、最大は直径10cmにもなる。模様もさまざまで、赤や黒の色をつけたものもある。

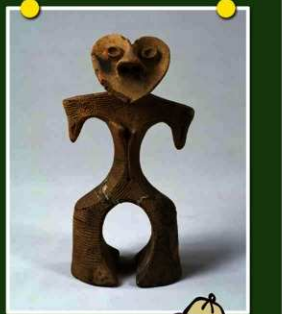


おまけ!  
豆知識!!

## 【ハート形土偶】の巻

土偶とは土で作った人形のことじゃ。ほれ、顔がハートの形をしておるじゃろ。この土偶は、今から3,500年前（縄文時代後期）のもので、高さ30.5cmじゃ。1944年（昭和19年）に、東吾妻町の郷原駅近くで道路工事中に発見されたんじゃ。戦後に発表されると、美術界に一大センセーションを巻き起こし、日本を代表する原始美術の傑作と評価されるようになったんじゃ。もちろん、縄文人の心や文化を探るための、考古学的にたいへん貴重な資料でもあるぞ。

特徴的なハート形の顔は、仮面をかぶった姿とも、顔の主要部分だけを強調したものとも考えられておる。



遺物とは時代が全然違うんだね。



# 中高瀬観音山遺跡

所在地 富岡市中高瀬 ほか  
MAP P.65 C-3  
関連施設 群馬県歴史文化調査センター発掘情報館 ほか  
MAP P.64 B-2



動画



【空から見た遺跡】



【出土品（壺）】

富岡市中高瀬にある、今から1,900～1,800年前（弥生時代後期）の集落遺跡。急な崖の上に140軒以上の住居が集中し、周りの平地からは近づけない。この集落は、さらに木柵や堀、見張台などで厳重に守られていた。また、軒を接するように建てられていた住居の多くは、火災で焼け落ちた状態で発見された。貴重な遺跡として保存するため、高速道路を遺跡の下にくぐらせてトンネルにした。

Point



## 弥生時代に大戦争？

弥生時代後期の日本は“倭国大乱”という戦乱状態であったことが『魏志倭人伝』に記されている。中高瀬観音山遺跡の焼けた住居跡をこの戦乱に関連づけて考える説もある。

# 日高遺跡

所在地 高崎市日高町高畑前31-2 ほか  
MAP P.65 D-2  
関連施設 群馬県歴史文化調査センター発掘情報館 ほか  
MAP P.64 B-2



【水田跡】



【足跡】

高崎市日高町にある、今から1,800～1,700年前（弥生時代後期～古墳時代初期）の遺跡。集落やお墓のほか、水田の跡が見つかり、弥生時代の群馬県に稲作が伝わっていたことを示す貴重な発見となった。3世紀末に大噴火した浅間山の火山灰を丁寧に取り除いていくと、当時の水田が、人の足跡までそのままの形で姿を現した。群馬県における考古学で“軽石層”が目目されるきっかけとなった遺跡。

Point



## 稲作技術はどこから？

日高遺跡で発見された弥生土器は、長野県の土器と似ており、つながりを感じさせる。また、広範囲の交流を示す、愛知県などの特徴の土器も出土している。

# 前橋天神山古墳

所在地 前橋市広瀬町1-27-7  
MAP P.64 C-3



【古墳の現状(南東から)】



【発掘された粘土磚】

前橋市広瀬町にある、4世紀頃(古墳時代前期)の前方後円墳。朝倉・広瀬両団地のほぼ中央に位置し、1968～69年(昭和43～44年)に発掘調査された。墳丘は3段に築かれ、全長129m。前方部は幅68m、高さ7m、後円部は直径75m、高さ9m、後円部から長さ約8mの粘土楯(木製の楯の周囲を厚く粘土で覆った地説)という、埋葬施設が出てきた。副葬品として銅鏡5枚のほか、当時はまだ珍しかった鉄製の武器や工具が出土した。銅鏡のうち2枚は、「三角縁神獸鏡」という特殊な形の鏡で、奈良県で100枚、京都府で66枚など西日本で多く出土するが、東日本では群馬県の12枚が最多数、他地域では数枚程度だ。

また、墳丘の頂上からは赤く塗られた蔓形の土器が並んで出土した。これは埴輪が作られる前の、古墳のまつりに関する道具であると考えられている。



おまじない  
50年詩!!

【三角縁神獸鏡の「神」と「獣」の像】の巻

「三角縁神獸鏡」の写真を見て、「神」と「獣」の像を探すのじゃ。

ヒント 「神」は人の姿をしている。「獣」は実際にはいない顔をしているうえ、体は横向きに描かれている。



## point 1 東日本最古鏡

前橋天神山古墳は、①前方部が後円部より低い ②埴輪以前の壘形土器でまつりを行っている ③埋葬部や副葬品の特徴などから、4世紀前半という東日本では一番古い時期に造られたとされる。



## point 2 きんかくふらんしんじゅうほう 三角縁神獸鏡とは?

出土した鏡は、扇形断面が三角形で、裏面の内側に神と獣の像を描く特別な鏡。邪馬台国の女王卑弥呼が中国から届ったとされる銅鏡と関係を持つ型で作られており、畿内との強い結びつきを示している。



## point 3 残っているのはわずか

墳丘の大部分は削られて、埋葬施設を中心に地上9mくらい残されている。その無残な姿が、団地造成という開発の波の中で、価値ある古墳の主体部だけでも残そうとした関係者の思いを伝える。



# 中溝・深町遺跡

所在地 太田市新田小金井町320-3  
MAP P.67 B-3



【まつりの場所】



【方形区画全景】



【方形区画内復元予想図】

太田市新田小金井町にある4世紀末～5世紀初め(古墳時代前期)の遺跡。1995年(平成7年)の発掘調査で、北部から大規模な推立柱建物跡と2基の石敷き井戸が発見された。これらは「水のまつり」を行った場所であろうと考えられている。南部で発見された方形区画とともに、約10,000㎡が「小金井史跡公園」として整備されている。

この遺跡の北側には豪族居館の存在を想定させる溝跡(唐橋田遺跡ほか)、南西側には一般庶民の集落(一本杉II遺跡)が発見されており、これらの遺跡群全体から、当時の「ムラ」のようすが明らかになった。

## point 1 まつりの場所

2基の井戸はほぼ同じ規模で平行に並び、正方形に柵を付けたような形に石が敷かれていた。中からは土器や木製品が出土した。東側の正方形の推立柱建物も柱が二重にめぐる構造で、古墳時代としては全国的にも例が少ないものだ。



## point 2 さまざまな出土品

住居跡から、普遍は住居にはあまりない銅鏡の破片やガラス玉、わざと穴をあけた壺などが出土した。また溝跡や自然の低湿地では田下駄や鎌、はし、藁を打つ槌などの木製品が良い状態で残っていた。



## point 3 えんぶくじちやうやま 円福寺茶白山古墳

遺跡の南東約1.2kmの地点に、黒下No.3の円福寺茶白山古墳(168m)がある。造られた時期は5世紀初めであり、太田天神山古墳(5世紀前半)の直前に大きな勢力を誇っていた豪族と考えられる。



## 考えてみよう!

▶群馬県では、古墳時代の豪族の居館跡が十数カ所見つかっている。どんな場所に多く建てられているのだろうか?

!ヒント 自分が豪族だったら、どんな場所に建てたいか、考えてみよう。

▶古墳時代の人々は、なぜ「水をまつり=祈りをささげる」ことをしたのだろうか? その理由を考えてみよう

!ヒント それぞれの「水」に対するイメージを考えてみよう。



# 白石稲荷山古墳

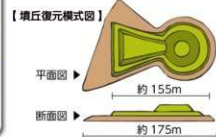
所在地 藤岡市白石1365ほか  
MAP P.65 D-3  
関連施設 藤岡歴史館  
MAP P.65 D-3



【古墳全図(南東から)】



【出土品  
(円筒埴輪)】  
左から、  
高さ59.5cm、  
59cm、92cm



藤岡市白石にある、5世紀初め(古墳時代中期)の大型前方後円墳。1933年(昭和8年)に最初の発掘調査が行われ、後円部の頂上から埴輪という埋葬施設が2つ発見された。副葬品としてまづりに使われた勾玉や管玉、刀子(小刀)などをかたどった滑石製のミニチュアなどが多数出土した。また、豪族の館を思わせる家形埴輪群も出土した。

1985~86年(昭和60~61年)の発掘調査により、墳丘長約155m、周囲の地形を整形した段を含めた長さが175m、前方部幅約80m、高さ6m、後円部径90m、高さ13.5mであることがわかった。墳丘上部の斜面には葺石(盛り土の崩れを防ぐため、その上を覆うように積み上げられた石)があり、中段の平らな面には埴輪列がめぐっていたことが判明した。

## 考えてみよう!

▶ 米を貯めておく倉庫はなぜ「高床」にしたのだろう?

【ヒント】米を保存する時は、どんなことに注意した方がよいのだろう。

▶ 2つの礫棚に葬られた人物の関係を推理してみよう

【ヒント】2つの長さは8.2mと5.3m、後円部の両端で平行につくられた。



何から米を貯めたか考えたかな??

## point 1 「見られる」を意識?

白石稲荷山古墳は、鮎川を東に見下ろす河原段丘に沿って造られている。そのため、段丘の下から見ると実際以上に大きく見える。そして下の写真のように古墳の頂上からは、関東平野が一望できる。



## point 2 いまがた家形埴輪

出土した家形埴輪は、豪族の家と高床倉庫の2種類。当時の住まいや生活がわかる貴重な資料だ。特に米を貯める倉庫は、地域の支配者にしか作れないので、権力の大きさを物語っている。



【高床倉庫】

## point 3 れきかく2つの礫棚

礫棚とは、細長い壁穴に納めた木箱の周囲を川原石で覆った埋葬施設のことだ。2つは後円部の東西の端で発見され、間が7.5mと離れていたため、中央にもう1つあるかと思われたのだが…なかった。



【発掘当時の西の礫棚】

# 太田天神山古墳

所在地 太田市内ヶ馬町1606-1ほか  
MAP P.67 B-4  
関連施設 群馬県立歴史博物館  
MAP P.65 D-2



【空から見た古墳】

【太田天神山古墳群配置図】



女体山古墳



太田市内ヶ馬町にある、5世紀前半(古墳時代中期)に造られた前方後円墳。墳丘の全長は210mで、全国で第28位だ。ただし、当時の政権の中心だった奈良県と大阪府を除くと第3位、東日本では堂々第1位だ。(P.5参照)

墳丘は、前方部は幅126m、高さ12m、後円部は直径120m、高さ16.8m。さらに二重の周堀を含めると、長さ355m、幅285mという広大な面積になる。平らな土地に土を積み上げてこの巨大な古墳を造っており、大がかりな土木工事を行った当時の支配者の権力の大きさがうかがえる。3段に築かれた墳丘には渡良瀬川水系の石が葺かれていた。また、後円部に長持形石棺(P.9参照)があったようすはわかっているが、未調査のため詳細は不明である。

## point 1 大古墳に大興奮!

「これはもう山だ!」と言いたくなるほどの威容を誇るとにかく大きいので一度は見ても価値がある。それにしても、奈良や大阪はこれよりはるかに大きい古墳があるなんて…さすが!



## point 2 実は全国第2位!?

古墳時代全体を通した大きさでは全国で28位だが、時期を細分して同時期の古墳と比べると、全国第2位になるといえる。「長持形石棺」の使用といえ、当時の群馬の地位の高さを示している。



## 考えてみよう!

▶ 関東地方の各都県で一番大きい古墳を比べてみよう

【ヒント】東日本では飛び抜けたNo.1であることを確認しよう。

▶ もし、あなたがお金や権力をもったら、どんな形でそれを誇示するか考えてみよう

【ヒント】みんなそれぞれが自由に考えて、意見を出し合おう。



## point 3 とんりの古墳

天神山古墳の隣に、同じ時期に、同じ向きで造られている女体山古墳。「単立貝式」という珍しい形だが、全長106mと非常に大きい。この2つは天婦の墓なのだろうか? それはまだゾロだ。



# お富士山古墳

所在地 伊勢崎市安塚町  
MAP P.64 C-4  
関連施設 群馬県立歴史博物館  
MAP P.65 D-2



【全景(南から)】



【空から見た古墳】



【墳丘実測図】



伊勢崎市安塚町にある5世紀前半(古墳時代中期)の前方後円墳。伊勢崎市内では最も大きな前方後円墳で、墳丘長は125mである。周りに幅の広い周堀があり、それを舍めた長さは192mになる。墳丘は3段で築かれていて、葺石が施され、埴輪が並んでいたことがわかっている。

この古墳の最大の特徴は、「長持形石棺」があることだ。長短の石の板を組み合わせて箱のようにするもので、東日本では太田天神山古墳(P.37参照)のほか、千葉県でその可能性がある破片が2例見つかったのみである。

## point 1 王家の石棺

「長持形石棺」は、畿内の大王朝の古墳にのみ採用されている。最上ランクの石棺だ。全国で45例知られているが、現地に保存される全容が見られるのは、東日本ではこのお富士山古墳だけだ。



## point 2 伊勢崎市の古墳

伊勢崎市域では、墳丘長100m以上の大型古墳はお富士山古墳だけだが、中小の古墳を合わせた数は群馬県内でも極めて多く、昭和初期の「上毛古墳総覧」では1,000基以上が確認されている。



【峰塚山古墳群の十三所古墳】

## point 3 奈良時代の伊勢崎市

7世紀後半頃から東山道が整備され、上榎木町周辺に「佐位部衙(佐位郡の役所)」が置かれた。その跡である三軒屋遺跡では、文献に記されていた八角形の倉庫が全国で初めて発見された。



【三軒屋遺跡の八角形倉庫跡】

### 考えてみよう!

▶伊勢崎市周辺地域で大型古墳がお富士山古墳しかないのはなぜだろうか?

! ヒント P.7にあるような大型前方後円墳は、どの辺りに多いか、地図で調べてみよう。

▶「王家の石棺」といわれる長持形石棺が太田天神山古墳とお富士山古墳にあるのはなぜだろうか?理由を考えてみよう

! ヒント 周遊した長持形石棺といえるのは、この2つだけなんだ!



# 保渡田古墳群

所在地 高崎市保渡田町・井出町  
MAP P.65 C-2  
関連施設 かみつけの里博物館  
MAP P.65 C-2



【保渡田八幡塚古墳全景(南東から)】



【手前・三子山古墳、奥・八幡塚古墳】

高崎市保渡田町・井出町にある、5世紀後半～6世紀初め(古墳時代中期～後期初め)に造られた3基の大型前方後円墳からなる古墳群。もっとも南にあり、最初に築かれたのが全長108mの井出三子山古墳、次いでその北東にある全長96mの保渡田八幡塚古墳、最後にその北西に全長105mの保渡田薬師塚古墳が築かれた。(以下、3基とも町名は省略)

古墳時代中期に墳丘100m前後の古墳が近接して3基も築かれた例は、東日本では保渡田古墳群しか見当たらない。

3基とも広大な二重の堀をめぐらし、多数の埴輪を立て並べた整穴式の埋葬施設で、舟形石棺が用いられていた。このうち三子山古墳と八幡塚古墳は、その内堀の中にある円形の施設(中島)が、他の古墳では例の少ない大きな特色になっている。八幡塚古墳では、多数の人物や動物の埴輪が出土した。

保渡田古墳群は榛名山の東南麓、高崎市の平野部の耕作地帯を見下ろすなだらかな扇状地の裾にあり、一帯を流れる下井野川の水源地域である。この古墳群に葬られた豪族は、ヤマト王権と強く結びつき、朝鮮半島とも関係を持った。その中で得た先進技術により、水路を造って地域を開発したり、馬の生産を行ったりして、この地域を支配した西毛地域を代表する支配者であったと考えられている。

6世紀前半、榛名山ニツ岳が2度の大噴火を起こした際に流れ出した土石がこの一帯を覆ってしまった。被害がほど大きかったのか、以後この場所に大型の前方後円墳が造れることはなくなった。



## point 1 ふなびたひつつかん 舟形石棺

身も蓋も大きな石をくり抜いて作った棺。船底のようにすぼまり、底部が平らになっている。首長クラスの長持形石棺に次ぐ階級の豪族に用いられたとされる。東日本では群馬の出土例が圧倒的に多い。



## point 2 4つの“中島”

いずれも直径18mほどの円形で、まわりには葦石、頂部には埴輪列がめぐる。島ごとに違う種類の遺物が出土するため、それぞれが別の方法で、何らかのまつりを行ったという説が有力。



## point 3 埴輪劇場その1

八幡塚古墳では、54体もの人物や動物の埴輪が密集して出土した区画がある。王(豪族)が行った催礼や狩りの場面などを表していることがわかり、非常に珍しい「埴輪の」埴輪もあつた。





# 三ツ寺 I 遺跡

保渡田古墳群(P.39参照)に近い高崎市三ツ寺町・井出町にある、5世紀後半(古墳時代中期)の全国で初めて古墳時代の豪族の館が発見された遺跡。1辺90mのほぼ正方形の敷地は、幅30~40m、深さ3~4mの広大な濠で囲まれ、櫓をめぐらせた内部から、大型の建物や竪穴住居、まつりの場などが見つかった。

それまで古墳時代の豪族の館は家形埴輪などから想像するだけだったが、三ツ寺I遺跡の発見によって、当時の豪族の館の構造や暮らしのようすが具体的に判明した。

近くにある保渡田古墳群は豪族の館と同じ時代のもので、保渡田古墳群に葬られた豪族が、生前、この地を治める拠点として館を使用したと考えられている。

所在地 高崎市三ツ寺町・井出町

MAP P.65 C-2

かみつけの里博物館

MAP P.65 C-2



【発掘当時】

VR



【豪族の館復元模型(かみつけの里博物館)】

Point



### すいり 水利を支配した豪族

石垣と堀を作って濠に水を貯めたり、櫓と樋で導水したりしていた。館内では水にまつわる祭事も行われていた。館の主は、井野川の水を支配することで豪族として力をもったのであろう。



# 中筋遺跡

所在地 茨川市行幸田

MAP P.64 B-2



【復元住居群】



【竪穴住居の内部】



【まつりの場】

茨川市行幸田にある、6世紀初め(古墳時代後期)の榛名山ニツ岳の噴火による火山灰や火砕流に埋もれた集落跡。金井東裏遺跡(P.42参照)も同じ時期の榛名山ニツ岳の噴火で被災した遺跡である。

住宅建設に伴って1986年(昭和61年)に発掘調査したところ、火山灰の下から被災時の状況のまま発見され、当時のムラのようなことが解明された。住居には竪穴式と平地式の2種類があり、数軒がまとまって垣根で囲まれていた。祭祀場ではイノシシなどの歯が出土しており、主食としてお供えされたものと思われる。

point 3

## 2度の噴火で形成された「榛名山ニツ岳」

榛名山は6世紀に、2度の大火噴火を起こした。1度目の噴火では発生した火砕流で中筋遺跡や金井東裏遺跡などのムラを埋め尽くし、2度目の噴火では噴出した大量の軽石で黒井峯遺跡や西組遺跡などのムラを埋め尽くしたのだった。



point 1

## 季節で住居を使い分け

2種類の住居は季節で使い分けられていたとみられ、建物内の土器の量から、被災した時は夏用の平地建物に住んだと推定されている。冬用の竪穴住居の屋根は、断熱効果のある土の屋根だった。



【夏用の平地建物】

point 2

## 火山灰に埋もれたムラ

群馬県をはじめ全国で古墳時代の住居跡はたくさん見つかったが、柱や屋根の構造がわかる残り方をしていたのは黒井峯遺跡や中筋遺跡が初めてだった。



【現地説明板より】

## 調べてみよう!

▶群馬県では、住居跡などの遺跡は非常にたくさん見つかっている。自分たちの身近な地域にそのような遺跡はないか、調べてみよう

ヒント

教育委員会で「文化財」を担当している人に聞いてみよう!



## おまめいわ。豆知識!!



## 【復元された古墳】の巻

保渡田古墳群のうち八幡塚古墳は、石室や墓石、埴輪、周輪などを細かく調査して「古墳が造られた時の姿」を正確に復元した全国でも珍しい古墳じゃ。あ、墓石とは、古墳表面を覆うキャベツくらの大きさの石のことじゃ。埴輪は6,000本も立っていて、中でも王などが行う儀式や狩猟の場面で再現されている様子は必見じゃぞ。古墳という、みんなは森のように木が繁っているイメージが強いじゃろうが、墓石で白く輝く墳丘を埴輪の列が赤く縁どっておる姿は、そりゃあ見事じゃ。

とにかく一度行って本物を見ると、古墳の本当の

すごさ、威厳を肌で感じるぞ。古墳づくりは地域住民が喜んで参加するイベントのようなもので、決して強制的な重労働ではなかったという考えにも、実物を見ると納得力を感じるのう。

二子山古墳は、本当は八幡塚古墳と同じように墓石や埴輪で飾られていたんじゃが、あえて1,500年経った姿と見比べてもらうために、現在残っている姿をできるだけ変えないうて整備したんじゃ。

築師塚古墳は、当面は現状のまま残そうじゃ。ほとんどが寺の境内となっており、後門部の頂上には角形石棺が保存されておるぞ。

よいか。歴史遺産というものは、ただ整備に残せばよいというわけではない。大切なことは、君たちや未来の人たちがふるさとのすばらしさに気づき、それを受け継ぎながら、よりよい新たな歴史を作っていくことなんじゃ。頼むぞよ。

# 金井遺跡群

所在地	茨西市金井1837 ほか
MAP	P.64 B-2
関連施設	群馬県立博物館 ほか
MAP	P.65 D-2



【金井東裏遺跡(発掘時の甲を着た古墳人)】



【金井下新田遺跡(馬骨)】

「甲を着た古墳人」の発見で注目を集める金井東裏遺跡だが、この遺跡の南に、もうひとつの重要な遺跡がある。それが「金井下新田遺跡」であり、両者あわせて「金井遺跡群」と呼んでいる。

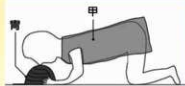
2つの遺跡はともに榛名山の噴火に伴う火砕流によって埋没しており、数々の貴重な発掘成果をあげている。

金井下新田遺跡でも数々の新発見が相次いだ。特に注目されるのは被災した「馬」の発見である。火砕流に襲われた馬が2頭発見され、一頭は仔馬、もう一頭は繁殖可能な雌馬であった。とりわけ仔馬の発見は、この地で馬の繁殖飼育が行われていたことを証明する、とても貴重な発見となった。このことから、金井遺跡群の周辺で、馬の生産や飼育が行われていたことがわかる。

## Point 1 「甲を着た古墳人」発見の衝撃

この地域一帯は、黒井峯遺跡(P.48)と同様、榛名山噴火に伴う噴出物によって覆われていることから、当時の様子リアルに伝える遺構や遺物が発掘されることは想定されていたところ。その時

代を生きた人物がその姿を残したまま発見され、しかも甲を身につけていたので、非常に多くの研究者に衝撃を与えた。



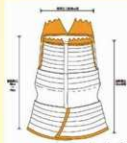
## Point 2 さびついた甲冑の当時の姿とは？

推定身長164cmの熟年前半(おおそよ40歳代前半)の男性である古墳人が身につけた甲冑を復元したところ、当時としては、国内で最高峰の甲冑であることがわかった。

甲は、1,800枚もの小札という長方形の小さな鉄板を縦りあわせた「小札甲」であり、冑は、約5~7枚の細長い鉄板と約800枚の小札が使われた「衝角付冑」という冑であることが判明した。



【冑の復元図】



【甲の復元図】



【復元された甲冑】

甲を着た古墳人の暮らしぶりは発掘調査の成果に基づく「金井東裏ムラ」の復元内容をVRによってビジュアル化することでより一層鮮明になってきた。

特に復元されたムラ姿からは、甲を着た古墳人が当時の渡来文化や渡来人によってもたらされた「馬」と関わりが深いことが明らかになってきた。特に、馬は垣の中の馬小屋で大切に飼育されていたばかりでなく、垣の外でもたくさん放牧されており、まさに「群れる馬」の光景が暮らしの中にあることが明らかになった。

VR



【VRで再現されたムラの姿】

## Point 3 古墳人が襲われた火砕流とは？

榛名山の大噴火によって発生した火砕流は、時速200キロとも推定される速さで地を這うように流れ下り、火口から約8キロ離れた金井東裏ムラを襲った。そして、古墳人たちが暮らししていたムラ一帯を埋め尽くしてしまった。

この噴火は、当時の人々にとっては生活基盤を根柢から失う大惨事となったが、このことが、1500年の時を超えて、「甲を着た古墳人」と私たちが対面することを可能にした。



【VRで再現した榛名山の火砕流】



## 【甲を着た古墳人の顔】の巻

「甲を着た古墳人」がどんな顔をしていたか、気にならんか？ ワンは気になって仕方がない。

そこで、古墳人の顔を復元する「復顔」にチャレンジしたのじゃ。

「復顔」というのは、頭の骨の複製品に粘土で肉付けをして生前の顔を復元するもので、この手法で、約1500年の時を超えて、「甲を着た古墳人」の顔がよみがえったんじゃ。

「甲を着た古墳人」(40歳代男性)は顔の形や目鼻立ちは朝鮮半島の人によく似ておつてのう、さっとご先祖のふるさは朝鮮半島のどこかだったと思うのじゃ。

さらに「首飾りの古墳人」(20~30歳代女性)も復顔をしたところ、代々この地域で暮らしているような生粋の地元人であることがわかったのじゃ。

「甲を着た古墳人」「首飾りの古墳人」復顔像

甲を着た古墳人



【顔骨】

首飾りの古墳人



【顔骨】



【復顔像】



【復顔像】

骨から顔が再現できるなんて…すごいね!

# 築瀬二子塚古墳

所在地 安中市築瀬756-1ほか  
MAP P.65 C-3  
関連施設 安中市学習の森ふるさと学習館  
MAP P.65 C-2



【空から見た古墳】



【石室入口(調査時)】



【後築3号墳】

安中市築瀬にある6世紀初め(古墳時代後期)の前方後円墳。墳丘の全長は約80m、後円部の直径が50mに対して前方部の幅が約60mで、やや前方部が大きいのが古墳時代後期の特徴である。

しかし、この古墳の一番の特徴は、関東地方の中でもっとも古い時期に造られた横穴式石室である。大室古墳群(P.45参照)の前二子古墳とはほぼ同じ時期で、羨道が非常に長い点と、玄室の内側全面にベンガラという顔料が塗られていた点が共通する。また、市内の後関3号墳や下増田上田中1・2号墳の石室の作り方に共通性が指摘されている。

## 考えてみよう!

▶ 関東地方でもっとも古い=早い時期とされる横穴式石室が、なぜ安中の地に築かれたのだろうか? 地図帳を見てその理由を考えてみよう

ヒント 大塚や壺内からの新しい文化や品物は、どこから来るのだろうか?

▶ 6世紀に中央(畿内)でどんなことが起こっていたか、群馬と比べてみよう

ヒント 群馬では、まだまだ大型の前方後円墳が造られていたが…



## Point 1 赤く塗られた石室(玄室)

築瀬二子塚古墳の石室(玄室)は一面真っ赤に塗られていた。「赤」には神聖な意味があったようで、土器や埴輪にも塗られている。あの金井東裏遺跡は、赤い顔料の玉が100個以上見つかったことも有る。



## Point 2 なんだこれ? お団子?

これは石室内から出土した「銀層ガラス」。長さは2cmほどで、3つの玉を連結している。ガラスの間に銀箔をサンドイッチにする高度な技法で、国内での類例は非常に少ない。遠く西アジアからの輸入品か。



## Point 3 史跡整備

平成27年度に史跡整備が完了し、公園となって公開されている。駐輪場やガイダンス施設も設置された。なお、出土品は「安中市学習の森ふるさと学習館」で見ることができ。



# 大室古墳群

所在地 前橋市西大室町二子山2659ほか  
MAP P.64 C-3  
関連施設 大室公園  
MAP P.64 C-3



【空から見た古墳群】



【前二子古墳】



【後二子古墳】

前橋市西大室町・東大室町にある古墳群。全体では10基以上の古墳が点在。主要な前方後円墳として、南から前二子古墳(全長94m、東日本で最古級の横穴式石室をもつ)、中二子古墳(全長111m、盾持人物埴輪が多数)、後二子古墳(全長85m、石室前から多量の土器)、小二子古墳(全長38m、人・馬・家・大刀などの埴輪が多数)の4基が並び、6世紀前半~後半(古墳時代後期)にかけて、この順で築かれた。

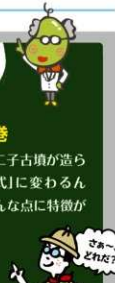
赤城山南麓一帯にはこれほど大型古墳群はほかになく、まして6世紀前半といえば榛名山が2度の大火火を起こし、県内全域が大きな被害を被った時期である。大室古墳群に埋葬されたのは、荒砥川や粕川の水利を掌握し、流域を広く支配した一族と考えられる。

## おまめいわや 豆作詩!!

### 【嬰穴式? 横穴式?】の巻

群馬県では6世紀の前半、ちょうど前二子古墳が造られた頃から、遺体の埋葬施設が「横穴式」に変わるんじゃ。それまでの「嬰穴式」と比べて、どんな点に特徴があるのか? 3択じゃ。

- 古墳の頂上に作られることが多い。
- 1つの石室に何人(何回)も埋葬できる。
- 広々とした石室の空間が作れない。



## Point 1 アーネスト・サトウ

幕末~明治初期のイギリス人外交官。自ら「佐藤之助」と名乗るほどの顔日本で、日本と日本人の理解に努めた。知識が広く、日本で初めての西洋科学的な学術調査を前二子古墳の出土品調査を行った。



## Point 2 「黄泉の国」伝説

前二子古墳は石室内の長い羨道(P.49 Point 1参照)。後二子古墳は石室前の長い墓道が特徴。「古事記」には、イザナギが長い道を通って妻の遺体を「黄泉国」に運ってきたとある。これは横穴式石室のことか?



## Point 3 埴輪の特別注文?

中二子古墳に立てられた埴輪の「土」を調べると、一部に藤岡産の埴輪があった。それはすべて精巧な形のもので、象埴輪だった。藤岡の埴輪窯から特別に運ばれたと考えられている。





七輿山古墳

所在地 藤岡市上落合甲831-1 ほか  
MAP P.65 D-3  
関連施設 藤岡歴史館 ほか  
MAP P.65 D-3



【古墳全景】

藤岡市上落合にある、6世紀前半(古墳時代後期)の前方後円墳。

大きさは全長150m、前方部幅115m、後円部径85m、高さはともに16mで、6世紀代の古墳としては東日本最大級である。墳丘の表面に、葺石と埴輪列が確認されている。二重の堀をもつが、調査で前方部側に三重目の溝も確認された。

藤岡市域は古代は緑野と呼ばれ、6世紀(535年)に屯倉(ヤマト王権が直接治める地域)が設置されたという記録がある。時期的にも古墳の内容から、七輿山古墳に埋葬された人は緑野屯倉を治めるために畿内から来た、ヤマト王権とつながりの深い人物であった可能性がある。



県内一美しい古墳と書かれているよ。



動画



Point 大王の古墳級?

古墳から出土した円筒埴輪は直径40cm、高さ1mを越す超大型品。しかも、大王級の古墳の円筒埴輪にしか見られない7条の突帯(粘土の帯)を持つなど、畿内との関係をうかがわせる。



高塚古墳

所在地 北群馬郡榛村新井字高塚2974-6 ほか  
MAP P.64 B-3  
関連施設 群馬県立歴史博物館 ほか  
MAP P.65 D-2



【空からみた高塚古墳】



動画



【高塚古墳の石室入り口】



【側面からみた高塚古墳】

北群馬郡榛村新井にある、墳長約60mの前方後円墳。6世紀前～中頃に造られた古墳であり、埋葬施設として横穴式石室が造られている。この石室は、全長10.6m、最大の高さは2.8mにも及ぶ群馬県有数の大型石室である。

昭和34～35年に、群馬大学尾崎喜左雄研究室によって発掘調査が行われ、武人埴輪をはじめ数多くの埴輪が出土した。

数多くの前方後円墳が存在することで知られる群馬県の中でも、高塚古墳は標高約170mの位置に築かれており、大敷城山古墳(北群馬郡吉楽町)とともに県内では最も北に位置する前方後円墳のひとつとして知られている。

Point 1 見事な武人埴輪

高塚古墳からはたくさん数と種類の埴輪が発掘されているが、その中でも「武人埴輪」は秀逸である。当時、武人がどんな立ち姿をしていたかを知ることができる、全国的にも貴重な埴輪である。現在は、群馬県立歴史博物館に収蔵されている。



Point 2 見学可能な大型石室

高塚古墳の横穴式石室は、大きな石材を用いた石室の全貌がぶささに見学できる数少ない石室である。県立実験農場内にあるため、見学の際は事務室への連絡が必要である。なお、毎年秋に開催される「高塚の春紅葉まつり」以外では、土・日・祝日の見学ができない。



Point 3 もうひとつの前方後円墳

平成24年3月、高塚古墳から北約1kmの地点、吉岡町南下で墳長約60mの前方後円墳の存在が明らかになった。その古墳の名は「大敷城山古墳」。南北朝時代の城館・桃井城として知られていたこの地には、それより約1000年前にすでに古墳が築かれていたのだ。



伊勢塚古墳

所在地 藤岡市上落合字園318 ほか  
MAP P.65 D-3  
関連施設 藤岡歴史館  
MAP P.65 D-3



【古墳全景】

藤岡市上落合にある6世紀後半(古墳時代後期)の古墳。直径約27mの円墳(もしくは不正八角形墳)と考えられている。この古墳の最大の特徴は、非常に美しい横穴式石室である。緩やかな曲線を描く壁面は、大きめの丸石(珪岩)と棒状の石(結晶片岩)を組み合わせた独特の構造で、「模様積み」と呼ばれている。当時の人々の美意識と、高い技術力を示す古墳である。

Point 模様積み石室

藤岡市から埼玉県児玉郡にかけて分布しており、全国でもこの周辺にしか見られない。伊勢塚古墳以外では、藤岡市内の霊符殿古墳や平地神社古墳が有名。



【伊勢塚古墳の石室内】



【霊符殿古墳の石室内】

どちらも水玉模様のきれいな石室だね。



考えてみよう!

▶ 武人埴輪に表現されている甲冑をくわく調べてみよう!

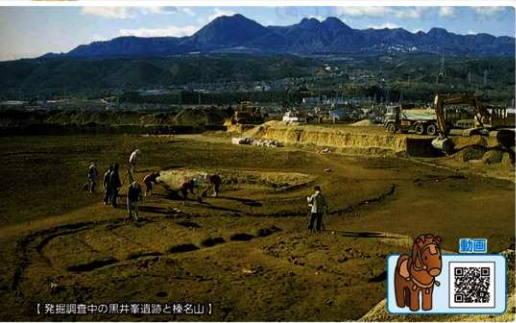
!ヒント 実物の甲冑と比較すると、ひとつひとつのパーツが何なのか、わかってるよ。

古代の甲冑は、何を材料に作られていたのさ?



# 黒井峯遺跡

【国】



【発掘調査中の黒井峯遺跡と峰名山】

所在地 渋川市北畠34-2 ほか  
MAP P.64 B-2  
関連施設 渋川市埋蔵文化財センター ほか  
MAP P.64 B-2



【現在の黒井峯遺跡】



【VRによる再現画像】

黒井峯遺跡は、古墳時代の集落遺跡としては日本で最も有名な遺跡のひとつである。今から約1,500年前に峰名山が大噴火を起こし、その時に降った軽石が2m以上も積もり、この集落を埋め尽くしてしまった。火山災害によって壊滅したイタリヤ古代都市ポンペイにならい「日本のポンペイ」と言われ、国内では唯一無二の遺跡である。

今から約30年前に、本格的な発掘調査が行われ、それまでは知ることができなかった、豊かな古墳時代の人々の暮らしぶりが次々に解明され、研究者や歴史ファンを驚愕させた。住まいとしての建物のほか、作業小屋や馬小屋など様々な種類の建物、埴壇、冪、道、広場など、他の地域の遺跡では発見されることが極めて困難といえる種類の遺構が多数発見されている。

## 考えてみよう!

▶「黒井峯遺跡はスゴい!」っていうけど、  
どんなところがスゴいの??

! ヒント 遺跡がどのようにして埋まっていたかを考えてみよう。

当時の人々の暮らしがわかる、  
とういうことは?



## Point 1 平地建物の発見

黒井峯遺跡が発見されるまで、古墳時代の住まいは「堅穴住居」を中心に考えられていた。ところが、黒井峯遺跡では地面を盛りくぼめない「平地建物」を多数発見。2種類の建物が共存する姿は、当時の住まいのあり方を考え直すきっかけとなった。



## Point 2 古墳時代の稲穂がそのまま発見!

昭和3年、建物内部で埋さままになった稲穂を取り上げた時、1500年前に閉ざされた稲穂が鮮やかな色のまま姿を現した。しかし、あつという間に色は変色。黒井峯遺跡の稲穂が、古墳時代と現代をつないだ瞬間の出来事だった。



## Point 3 西組遺跡はもう一つのスゴい遺跡

黒井峯遺跡の北側の谷を隔てたその場所に、西組遺跡という遺跡がある。この遺跡は、黒井峯遺跡と同様、1,500年前の峰名山の大噴火で埋没した遺跡であり、当時の土が、そのままでまで現代にのみがえった。もうひとつのスゴい遺跡である。



# 綿貫観音山古墳

【国】



【石室内】

所在地 高崎市綿貫町1752 ほか  
MAP P.65 D-2  
関連施設 群馬県立歴史博物館  
MAP P.65 D-2



【空から見た古墳】



【VRによる再現画像】

高崎市綿貫町にある、6世紀後半(古墳時代後期)に築かれた大型前方後円墳。1968年(昭和43年)に発掘調査された。大きさは全長97m、前方部幅63m、高さ9.1m、後円部径61m、高さ9.6mで、二重の堀がめぐる。内堀の幅は約30mである。

特筆すべきは、①見事な石組みの横穴式石室 ②墳丘に並べられた埴輪群像 ③石室から出土した豪華な副葬品だ。副葬品は、財力を示す金銅鈴付大帯や金銅製の馬具、軍事力を示す裝飾付大刀や鉄冑、政治力を示す銅鏡など、権力の大きさを示している。

墳丘や石室の復元整備が行われ、1981年(昭和56年)に県内初の史跡公園として公開された。

## Point 1 県内一大きい「石室」

石室は死者を葬る玄室と、通路の狭道に分かれる。全長12.6mの玄室は長さ8.1m、幅4m、高さ2.2mで、県内一大きい。壁面は角閃石安山岩を非常に高度な技術で四角く加工し、積み上げている。



## Point 2 綿貫観音山古墳の奇跡 1

石室は、盗掘されて見つかったことがほとんどだが、この古墳では、天井石が落下し、入口をふさいでいたことが幸いし、大量の副葬品がそっくり発見された。



## Point 3 綿貫観音山古墳の奇跡 2

2つ目の奇跡は、非常に質の高い副葬品が数多く出土したこと。中でも銅製の水差しは仏教の影響が見られ、中国山西省で似たものが出ている。銅鏡には、百濟の武寧王陵で出土した鏡と同じ型で作った鏡がある。これらは、大陸との交流がこの地まで及んだことを物語る貴重な遺品である。



## 考えてみよう!

▶石室内の副葬品の配置を分析し、どういふ意図があったか、推理してみよう

! ヒント 盗掘を免れたため、副葬品が埋められたときのままだになっていた。配置図を手に入れて、自分ならどうするかが想像してみよう。



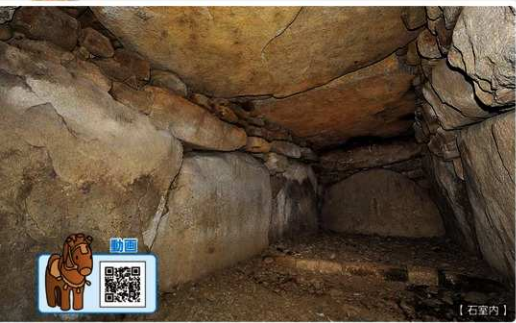
出土した副葬品と配置は全て写真に撮影したんだって!





# 八幡観音塚古墳

所在地 高崎市八幡町1087  
MAP P.65 C-2  
関連施設 高崎市観音塚考古資料館  
MAP P.65 C-2



【石室内】



【空から見た古墳】



【VRで再現された石室入り口】

高崎市八幡町にある、6世紀末(古墳時代後期)の古墳。墳丘全長は105mで、大型前方後円墳としては群馬県では最後の時期のものだ。前方部の幅約105m、高さ14mに対して後円部は径70m、高さ12mと、前方部が非常に大きい。

1945年(昭和20年)に発見された横穴式石室は、玄室と羨道を含めた全長が15.3mで、県内一大きい。その規模や、巨石を用いた石室の造り方が奈良県の石舞台古墳に似ているため『群馬の石舞台』とも呼ばれている。天井で最大の石は9畳分よりも広い面をもち、重さはなんと60トンと推定されている。石室内からは中央王権との結びつきを示す銅鏡、大陸文化の影響を受ける金銅製の馬具など約30種300点が出土している。

## 考えてみよう!

▶ 60トンの重さを、他のもので例えてみよう

最近なもの(○○何個分)などと例えてみて、重さを想像しよう。

▶ 60トンの石を、どこからどうやって運んで来たのかを考えてみよう

なんらかの「道具」を使わないと絶対無理! 当時ありそうな道具を考えてみよう。

ほくの体重は...



## Point 1 県内一大きい「石室」

玄室と羨道を含めた「石室」の大きさでは、この観音塚古墳が県内一大きい。玄室は長さ7.5m、幅3.5mで、特に天井の高さ2.8mがすごい! 羨道は長さ7.8m、最大幅2m、最大高2.3mだ。



## Point 2 大陸系副葬品 その2

銅鏡と呼ばれる青銅製の鏡が4セットもあり、うち2セットは銅や鍍、受け皿まで付く高級品である。銅鏡は5世紀のものなので、埋葬された人の祖先が王から賜ったものを100年以上大事に受け継いでいたのだと思われる。



## Point 3 最後の大型前方後円墳

大型前方後円墳は、その家族が中央政権とつながっていることを示すシンボルだったが、仏教の広がりて権威の象徴が古墳から大寺院に移っていた。



# 山王金冠塚古墳

所在地 前橋市山王町1-13-3  
MAP P.64 C-4  
関連施設 群馬県立歴史博物館  
MAP P.65 D-2



【空から見た古墳】



【金銅製の冠(復元)】

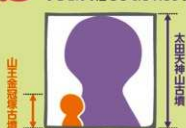
前橋市山王町にある、全長約53mの前方後円墳。朝倉・広瀬古墳群の南部に位置し、6世紀後半(古墳時代後期)に造られたと考えられている。

出土遺物に円筒埴輪や人物などの埴輪、武器、馬具などがあるが、なかでも古墳の名前の由来となった金銅製の冠は、全体の形がよくわかる全国でも数少ないもの一つである。写真にあるように、山の字を重ねたような立ち飾り5個を、頭にかぶる部分の輪に嵌めて形を作っている。細部の文様は、非常に精巧な打出し技法で描き出されている。韓国の慶州の古墳で出土した冠とよく似ており、大陸との強いつながりを示している。

## 考えてみよう!

▶ こんなに立派な冠をもっている、この古墳に埋葬された人はどんな人物なのか、自由に推理してみよう

ヒント 墳丘自体は決して大きくはない。なぜこんな冠をもてたのだろうか?



## Point 1 朝倉・広瀬古墳群

金冠塚古墳のある一帯は朝倉・広瀬古墳群と言われる県下有数の古墳群だった。前橋天神山古墳(P.34参照)や八幡山古墳(全長130mの前方後円墳)から後期・終末期の小型円墳まで、約150基があった。



## Point 2 冠の出た古墳

金銅製の冠は朝鮮半島の影響が強くと、6世紀後期に流行した。国内では奈良県の藤ノ木古墳の冠が有名だ。熊本県の江田船山古墳では5世紀後半の冠が出土した。関東地方では栃木県・茨城県、千葉県で出土している。



【藤ノ木出土 金銅冠(復元)】

## Point 3 東京国立博物館…ぐまの埴輪

出土した冠は現在、東京国立博物館に保管されている。東京国立博物館には、形象埴輪(人物・馬・家など)を中心に、たくさんの群馬県内出土の文化財が保管・展示されている。



# 奈良古墳群

【県】

所在地 沼田市奈良町  
MAP P.66 B-5

【全図】



【2号墳入口】



【奈良13号墳出土の馬具】



沼田市奈良町にある7世紀から8世紀初め(飛鳥時代)の古墳群で、かつては60基以上あったといわれる。残りの良いものは11基あり、それぞれに番号がついている。横穴式石室をもつ直径7~20mほどの小さい円墳で構成される。墳丘には葺石は確認されたが埴輪はなかった。利根・沼田地域の特色として、出土品には香葉や骨、鏝などの馬具が多く、この地域は馬の生産集団と関係が深いと考えられている。

関東地方の山間部の「群集墳」(Point1参照)の特徴をよく示している古墳群で、現存する数少ない群集墳のようすが、現地で確認できるという点が貴重である。

## 考えてみよう!

▶7世紀になっても小円墳の群集墳が増えたのはなぜだろう?理由を考えてみよう

**ヒント** 古墳のある場所や7世紀の社会のしくみなどを調べてみよう。

▶群集墳など的小円墳が自分の学校区に残っていないかを調べ、古墳時代にどのような場所だったのか、考えてみよう



【東平井古墳群 (群岡市)】



# 三津屋古墳

【県】

所在地 北群馬郡吉岡町大久保  
MAP P.64 B-3

【石室入口部】



【墳内見学施設】



【空から見た古墳】

吉岡町大久保にある7世紀後半(飛鳥時代)と推定される八角形墳。八角形と推測される古墳は関東地方にいくつか存在するが、発掘調査によって全角135度の正八角形を示す唯一の古墳と確認された。対角間が23.8mで、墳丘の表面には葺石があった。現在は調査の成果をもとに外観が完全復元された。墳丘の内部は横穴式石室と土を硬く盛った墳丘を作ったようすが見学できる施設となっている。

同時期の古墳として、三津屋古墳の西方約1.5kmに南下古墳群(Point 2・3参照)が、南方約3kmには総社古墳群(P.54、55参照)があり、それぞれの関係性が注目されている。

## 見てみよう!

▶三津屋古墳と南下古墳群について、詳しく解説した動画を公開中!

特に南下古墳群は、傷みにより石室の立ち入りを禁止しているから悲しい!



三津屋古墳



南下古墳群



石室内や土からの映像が観られるよ。

## Point 1

### 八角形は天皇家の形

奈良県で7世紀中頃に築かれた八角形の古墳は7基で、すべて天皇か皇子の墓と推定されている。それと同じ時期だとすれば、群馬県に正八角形墳が造られていることの意味は非常に重大である。



## Point 2

### 南下古墳群

吉岡町南下にある6世紀後半~7世紀末(古墳時代終末期~飛鳥時代)の群集墳。かつては100基以上の古墳があったとされる。現在は6基が残るのみで、調査の際にA~F号の名前がつけられた。



【南下E号墳石室入口】

## Point 3

### 裁石切組積の技

A号墳、E号墳の石室は、石材をまっすぐに四角形や十字形に加工した「裁石切組積」である。特に珍しいのは、加工の際の目印にしたと思われる朱線が残っていたことだ。これは全国でも数例しかない。



【南下E号墳石室内】



群集に行って見ると、帯がよくなるよ。

## ほうとうざんこふん 宝塔山古墳

(国)



宝塔山古墳

蛇穴山古墳

〔空から見た古墳(昭和58年撮影)〕

所在地 前橋市総社町1606

MAP P.64 B-3

関連施設 前橋市総社歴史資料館

MAP P.64 B-3



〔石室入口〕



〔家形石棺〕

前橋市総社町にある、7世紀後半(飛鳥時代)に造られた一辺約60m、高さ約12mの大型方墳。すぐ東に蛇穴山古墳(P.55参照)がある。宝塔山古墳は、2009年(平成21年)の調査により、堀を含めると一辺96mに達する大規模な古墳であることがわかった。

この地域周辺の大型古墳は遠見山古墳(5世紀末)、壬山古墳(6世紀初頭)、総社二子山古墳(6世紀後半)と前方後円墳が続いたのち、7世紀前半に方墳の愛宕山古墳が築かれ、宝塔山古墳、蛇穴山古墳へと続く。これらをひとまとめにして「総社古墳群」という。総社の豪族は牛池川・梁谷川の流域一帯を支配したと考えられる。

Point 1

### 高度な石材加工技術

群馬県西部の終末期古墳の横穴式石室は「載石切組積」といって、石材を四角形やし字形に加工して組み合わせる高度な技術が特色。紙1枚入らないほど、ぴったりと精巧に作られている。



Point 2

### 仏教文化の影響

宝塔山古墳の石室は、墓室と玄室の間に前室を持つ珍しい複室構造。さらに珍しいのが玄室に安置された家形石棺の底部、「格狭間」という台の脚のようなくりぬきは、仏具と共通する。



Point 3

### 白く塗られた壁面

宝塔山古墳と蛇穴山古墳の玄室の壁面には「漆喰」という白い塗料が塗られていた。懐中電灯で見るとその痕跡が残っている。奈良県の高松塚古墳のような絵が描かれていたのか?



### 考えてみよう!

▶紙をし字形に切って組み合わせせ、「載石切組積」技法の難しさを体感しよう

まず1枚の紙を適当に3つに切る。その3枚で、角が直角になるように四角形やし字形に切って組み合わせる。なるべく大きい長方形(正方形)に作り直す。



これって...  
けっく  
むずかしいわ

## じゃけつざんこふん 蛇穴山古墳

(国)



〔古墳全景(南から)〕

所在地 前橋市総社町総社1587-2

MAP P.64 B-3

関連施設 前橋市総社歴史資料館

MAP P.64 B-3



〔石室入口〕



〔空から見た古墳(昭和58年撮影)〕

前橋市総社町にある、7世紀末(飛鳥時代)の大型方墳。墳丘は一辺約43m、高さ6.5mで、2009年(平成21年)の発掘調査で二重の堀が確認され、全体では一辺82mの規模になることがわかった。「総社古墳群」の中では宝塔山古墳の次に造られ、この蛇穴山古墳が最後に造られた。横穴式石室だが、羨道がなく、いきなり玄室になる非常に珍しい造り。玄室は長さ3m、幅2.6m、高さ1.8m。

近隣には「山王麻尊」が7世紀後半に建てられた。奈良時代になると南方向約2kmに上野国の役所である「国府」が、南西約2kmには国管の大本院である「上野国分寺」が建てられるなど、この周辺は古代上野の中心になっていった。

### 考えてみよう!

▶壁面が描かれている古墳を調べ、どんなものが描かれているか調べてみよう

ヒント 描いた人、描かせた人の「願い」がこめられている繪だ。



ほかに  
塚や墓など  
描かれている古墳も  
あるよっ☆

〔高松塚古墳(奈良県)  
西宮女子群像〕

Point 1

### 県内最後の大型古墳

畿内では前方後円墳から大型方墳、最後に八角形墳に移行する。総社古墳群は県内で唯一、前方後円墳のあと大型方墳が3基続いた古墳群だ。そして、蛇穴山古墳は、県内で最後に造られた大型方墳なのだ。



Point 2

### 最先端の石材加工技術

玄室は古瓦と奥壁、天井をそれぞれ巨石1石で造っている。3m以上の石の表面にわずかなふくらみをもたせて磨き、角を削って組み合わせる念の入れ方。入口の石の加工も非常に精巧で、当時の最先端技術を駆使。



Point 3

### 石室前の広場

蛇穴山古墳は石室入口前に八角字形に開く部分が有る。宝塔山古墳では直角に区切られている。このような石室前の広場を「前庭部」といいます。お供え物やお祈りをささげた場所と考えられています。



〔石室入口〕



# こうずけさんび 上野三碑

〔多胡〕所在地	高崎市吉井町池1095ほか	〔金沢〕所在地	高崎市山名町2334
MAP	P.65 C-3	MAP	P.65 C-3
〔山上〕所在地	高崎市山名町2104	関連施設	多胡碑記念館
MAP	P.65 D-3	MAP	P.65 C-3

高崎市山名町にある「幸臣歳」(681年)銘の山上碑、神龜3年(726年)銘の金井沢碑、高崎市吉井町池にある和銅4年(711年)銘の多胡碑の3つの石碑を「上野三碑」と呼ぶ。平安時代より古い石碑は全国でも18例しか現存しておらず、3つの石碑が狭い範囲に集中しているのは非常に珍しい。

文字を使って石碑を建てる文化は、当時、朝鮮半島や中国大陸から伝わったものとされ、古代の群馬県には、渡来人から伝わった文化や技術が大きく関わったと考えられる。

それぞれの碑が建てられた目的や内容・性格は異なるが、仏教や文字の広がりや渡来人の動き、中央政府の支配体制を知る資料として共通点もある。

上野三碑はその価値を認められ、2017年(平成29年)10月にユネスコ「世界の記憶」に登録された。



## 山上碑



長利という僧が母の崩壊の為に建てた石碑で、完全な新築品では日本最古の石碑だよ。



### 〈読み方〉

辛巳歲集月三日に記す。佐野三家を定め賜ふる  
健守命の孫の黒亮刀自、此れ新川臣の児の  
斯多々弥足尼の孫の大兒臣に娶て生める兒の  
長利僧が、母の為に記し定むる文也。 放光寺僧

### 〈現代語訳〉

681年10月3日に記す。佐野にあったヤマト政権が直接支配していた土地の畿内での管理者である健守命の子孫の黒亮刀自、その方が新川臣の子の斯多々弥足尼の子孫である大兒臣と結婚して産んだ子どもである長利という名の僧が、母親のために書いた文である。放光寺の僧

### 〈読み方〉

并官符す。上野国の片岡郡・緑野郡・甘良郡すべて  
三郡の内、三百戸を郡と成し、羊に給て多胡郡と成せ。  
和銅4年3月9日甲寅に宣る。左中弁・正五位下多治比真人。  
太政官・二品穗積親王、左大臣・正二位石上尊、右大臣・正二位藤原尊。

### 〈現代語訳〉

朝廷の并官局から命令があった。上野国片岡郡・緑野郡・甘良郡の3郡から300戸を分けて新たな郡をつくり、羊に給てを任せ、郡の名は多胡郡と成す。  
711年3月9日に命令が伝えられた。左中弁・正五位下多治比真人から送られた天皇の命令書である。太政官・二品穂積親王、左大臣・正二位石上尊、右大臣・正二位藤原尊

## 多胡碑



多胡碑という新しい碑をつけた記念の石碑なんだよ。



## 金井沢碑



山の敷えで結ばれた一帯が建てた石碑だよ  
カナビー

※口は読めない文字

### 〈読み方〉

上野国群馬郡下郷郡高田里の三家子口が、七世父母と現在父母の為に、現在侍る家刀自の他田君自頼刀自、又児の加那刀自、孫の物部君午足、次に頼刀自、次に若頼刀自の合せて六口、又知識を結びし所の人、三家毛人、次に知万目、館師の禰部君身麻呂の合せて三口、是の如く知識を結び而して天地に誓願し仕え奉る石文  
神龜三年丙寅二月二十九日

### 〈現代語訳〉

上野国群馬郡下郷郡高田里に住んでいる三家子口が、先祖と父母の為に、いま主簿の立場にある他田君自頼刀自、その子のも加那刀自、孫の物部君午足、妹の頼刀自、その妹の若頼刀自のあわせて6人、また孫に仏の教えで結ばれている三家毛人、その弟の知万目、館師の禰部君身麻呂のあわせて3人が仏の教えにより、一族の繁栄を願ってお祈りし上げる石文である。726年2月29日

## ユネスコ「世界の記憶」とは

世界的に重要な文書や書籍、絵画・音楽など、歴史的記録物の保存への意識を高めるとともに、利用を促進するために開始されたユネスコの事業で、2017年10月現在、「アンネの日記」やベートーヴェンの自筆楽譜など427件(日本関係は7件)が登録されている。

### Point 1

## 今でも読める漢字

碑文の文字は、いくつかの異体字を除いて、現在も使用されているものばかりだ。1300年前の文字を現代人が読むことができるのは、世界でも珍しいことで、日本の文化が継続していることを示している。



### Point 2

## 三碑を守ってきた人たち

明治の初めに群馬県令(今の県知事)となった権取孝彦は、上野三碑など県内の文化財保護に取り組んだ。現在、私たちが史跡や文化財を見ることができているのは、権取県令と、地域の人々の尽力のたまものといえるだろう。



【権取孝彦】

### Point 3

## サノミヤケ(山上・金井沢)

山上碑と金井沢碑に刻まれる「三家」とは、かつて高崎市佐野地区周辺に天皇の領地(屯倉)や、これを管理した幕僚の宅所とされる。山上碑を建てた「長利」以来、一度で厚く仏教を信仰したのであろう。



### Point 4

## 群馬の石碑…多さ

古代の石碑で、国内で現存するのはわずか18基。そのうち本県には上野三碑と、桐生市新里町の山上多重塔(801年)の4基もある。文章の知識や石に文字を刻む技術だけでなく、未来の人々に伝えようとする「意識」が進んでいたのだ。



【山上多重塔】

## 考えてみよう!

▶ 上野三碑の碑文の中から、現在の地名を探してみよう

ヒント 漢字は現在と違うので、読み方をよく見よう。



▶ 8世紀に中央(畿内)で、どんなことが起こっていたか、群馬と比べてみよう

ヒント 中央(畿内)では中央集権が進み、華やかな天平文化が花開いていたが…。

さんのうはいしあと

# 山王麿寺跡

[国]



[ 塚の中心礎石 ]

所在地 前橋市総社町総社2408

MAP P.64 B-3

関連施設 白枝神社

MAP P.64 B-3



【 破片 】



【 礎基石 】

前橋市総社町にある、7世紀後半(飛鳥時代)に創建された関東最古級の寺院跡。出土した仏像の破片は法隆寺のものどよく似ており、畿内の大寺院にも引けをどらない格式と規模を想像させる。現在、その当時の建物は残っていないが、建物の跡や遺物が出土している。

周辺には総社古墳群があり、宝塔山古墳・蛇穴山古墳という7世紀代の県内最大級古墳が有名である。この2基と山王麿寺には石材加工技術に共通点が認められるため、総社古墳群の豪族がこの寺院を造ったと考えられる。この地域は、群馬県内で最後まで大型古墳を造り、最初に大寺院を造ったという、古墳と古代寺院との密接な関連を示すよい例になっている。

総社が群馬の中心地だったのね



群馬の中心地でもあったのね

## 考えてみよう!

▶ この頃から古墳→寺に変わったのはなぜか考えてみよう

▶ 7世紀に中央(畿内)で、どんなことが起こっていたか、群馬と比べてみよう

**ヒント** 群馬(上野国)では総社の豪族が権勢を振るい、大古墳や寺院を造っていたが…

point 1

## 驚くべき石材加工技術

現在の白枝神社を中心とした周辺が山王麿寺跡。精巧に加工された塚の心礎(中心の大柱を支える石)、横巻石(大柱の地表部分を飾る石)、金堂の石製の鰐尾(鳥の尾の形の彫刻)が直に見られる。



point 2

## 地方豪族と仏教

7世紀、豪族の権威の象徴は古墳ではなく、瓦葺きの金堂や塔をもつ寺院になった。群馬では平野郡の西(山王麿寺)、中央(上榑木麿寺=伊勢崎市)、東(寺井麿寺=太田市)に分かれて建てられていた。



point 3

## 山上碑との関わり

発掘調査で「放光寺」という文字を刻んだ瓦が出土した。山王麿寺が高崎市山名町の山上碑の碑文にある「放光寺」であることがわかった。



【 瓦片 】

こうざけこくぶんしあと

# 上野国分寺跡

[国]



[ 南から見た上野国分寺跡 ]

所在地 高崎市東国分町・引間町

MAP P.64 B-3

関連施設 上野国分寺館

MAP P.64 B-3



[ 調査基礎 ]



[ 上野国分寺復元イラスト ]

本場は空襲で消失したんだよ!

高崎市東国分町・引間町および前橋市元総社町にまたがる上野国分寺跡。奈良時代には政争、疫病や災害などで社会不安が高まったため、聖武天皇は仏教の力で混乱した国をまとめようとして、741年(天平13年)、全国約60の国に「国分寺」を造ることを命じた。上野国では豪族らが協力して約9年で仕上げたが、これは全国の中で一番遅い部類で、朝廷から褒美をもらっている。国分寺は東西約219m、南北約231mを礎埋(土を突き固めて造った堀)が囲み、内側に金堂・講堂・塔などが建てられた。地方の古代寺院の中では飛び抜けて巨大な規模で、「国の華」と称えられた。

七重の塔は遠くからでもよく見えていたのかな?



## 考えてみよう!

▶ 群馬県(上野国)周辺の都県の、古代の国の名前を調べてみよう

**ヒント** 地図帳を調べてみよう。また、小さい字だが「国分寺跡(地図記号は…)」も探してみよう。

▶ 仏教が日本に伝わってから、全国に国分寺が造営されるまでの流れを調べてみよう

**ヒント** 仏教を保護して広めようとした人物や、仏教が関係して起きた事件などを調べてみよう。

point 1

## 上州人気質 その1

上州人気質は、①新しい物好き ②義理人情に厚く他人のために尽くす ③忠誠心が高い ④お金に大ざっぱ、だそうだ。国分寺造営のようすをみると、昔からそうだったのか、とナツク?



point 2

## 上州人気質 その2

国分寺に建てられた七重塔の高さはなんと60.5m! 全国の国分寺の中でも最大級。現在、日本一高い県庁舎は群馬県庁(約154m)。⑤やるべきはとことんやる。これも上州人気質か?



point 3

## 国分寺の僧はエリート?

聖武天皇のねらいは、仏教のほか学問・技術も広めること。国分寺はただの寺院ではなく、現代の「国立大学+県立図書館+総合病院」的な施設。位の高い僧は大学教授のような立場だった。







【第4章 掲載遺跡・古墳】

番号	指定	形状	名称	よみがな	指定年月日
01	国		岩宿遺跡	いわしょくいせき	S54.8.17
02	国		矢瀨遺跡	やせいせき	H9.3.17
03	国		茅野遺跡	かやのいせき	H12.3.7
04	国		中高瀬観音山遺跡	なかたせがねの観音いせき	H9.3.17
05	国		日高遺跡	ひだがいせき	H1.11.9
06	県	■	前橋天神山古墳	まえばし天神山こふん	S45.12.22
07	県	■	中溝・深町遺跡	なかつち・ふかまちいせき	H10.3.24
08	国	■	白石稲荷山古墳	しろいしなりやまこふん	H5.11.30
09	国	■	太田天神山古墳	おたて天神山こふん	S16.1.27
10	市	■	お富士山古墳	おふじやまこふん	S41.4.12
11	国	■	保原田古墳群	ほだたのこふんぐん	S60.9.3
12			三ツ寺1遺跡	みつでら1いせき	
13	県		中筋遺跡	なかすじいせき	H4.5.15
14			金井遺跡群	かないせきぐん	
15	国	■	藤澤二子塚古墳	やなせふたごづかこふん	H30.10.15
16	国	■	大室古墳群	おおむろこふんぐん	S2.4.8
17	国	■	七興山古墳	ななこしやまこふん	S2.6.14
18	県	■	伊勢塚古墳	いせづかこふん	S48.8.21
19	県	■	高塚古墳	たかづかこふん	S34.8.5
20	国		黒井峯遺跡	くろいづねいせき	H5.4.2
21	国	■	練貫観音山古墳	ねんくわんがねの観音こふん	S48.4.14
22	国	■	八幡観音塚古墳	やわたの観音づかこふん	S23.1.14
23	市	■	山王金冠塚古墳	さんのうきんがんづかこふん	S61.6.6
24	県	●	奈良古墳群	ならこふんぐん	R2.2.21
25	県	●	三津屋古墳	みつやこふん	H7.3.24
26	国	■	宝塔山古墳	ほうとうざんこふん	S19.11.13
27	国	■	蛇穴山古墳	じゃけつざんこふん	S49.12.23
28	国 (特別史跡)		上野三碑	こうずけさんび	S29.3.20
29	国		山王興寺跡	さんのういしあと	S3.2.7
30	国		上野園分寺跡	こうずけこくぶんじあと	T15.10.20

■…前方後円墳 ■…前方後方墳 ■…帆立貝式古墳 ●…円墳 ■…方墳 ●…八角形墳 ■…五角形墳

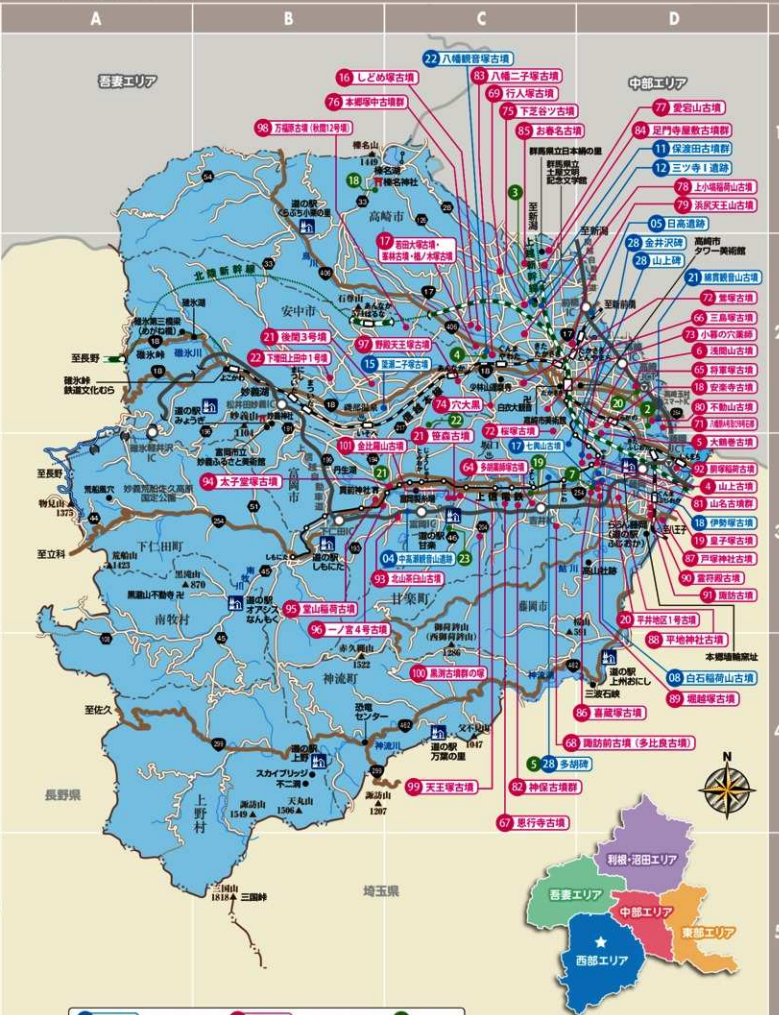
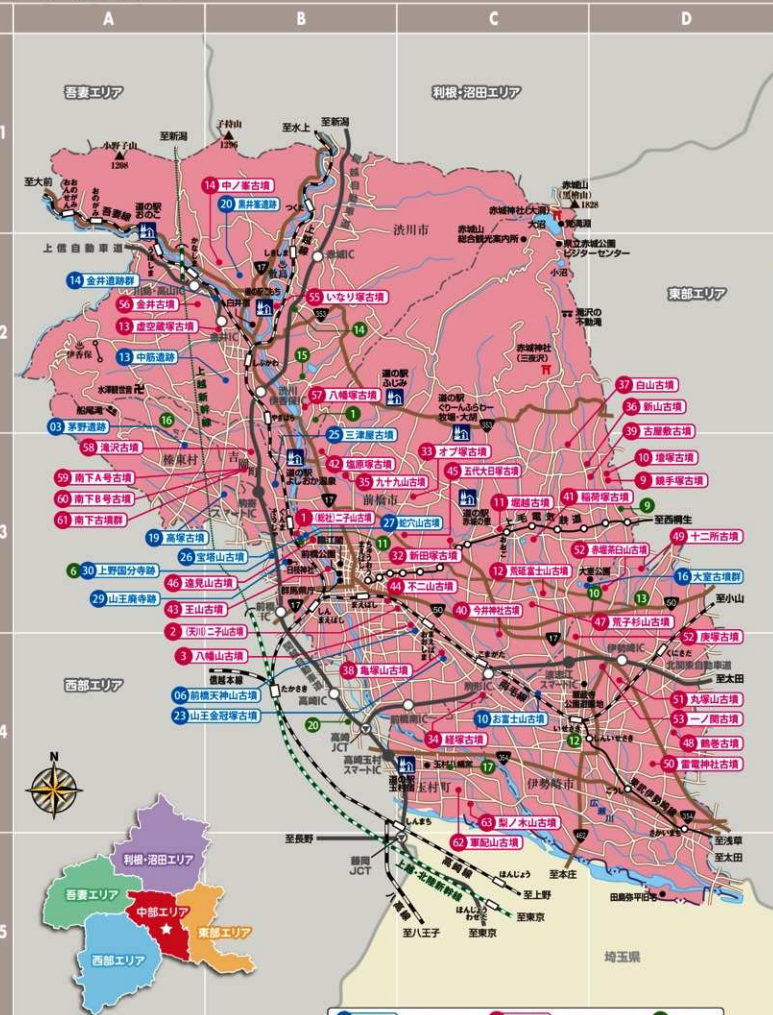
群馬県全域マップ  
GUNMA KOFUN MAP



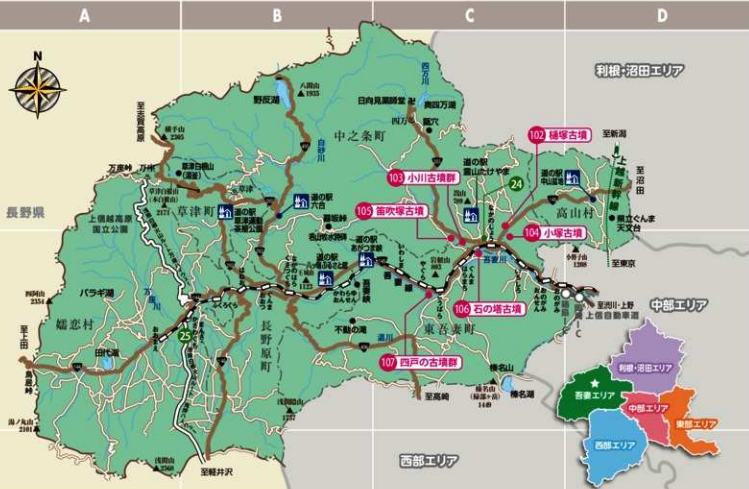
00…第4章掲載古墳 00…古墳一貫掲載古墳 00…関連施設

【中部エリア】

【西部エリア】



### 【吾妻エリア】



### 【利根・沼田エリア】



### 【東部エリア】



東国文化の学習に役立つ施設をいくつか紹介します。ぜひ見学して「本館」に触れてみてください。

名称	所在地	MAP	電話	開館時間	休館日
<b>1 群馬県歴史文化財調査センター発掘情報館</b>	所在地 渋川市北碓町下船田784-2 開館時間 9:00～17:00(休館日は15:00、入館は16:30まで) 観覧料 無料 休館日 土日、祝日(日曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始、年度末年度始	<a href="#">MAP</a>	0279-52-2513	P.64 [B-2]	
<b>2 群馬県立歴史博物館</b>	所在地 高崎市緑野992-1 開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで) 観覧料 大人300円、大・高校生150円、中学生以下は無料 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、臨時休館日あり	<a href="#">MAP</a>	027-346-5522	P.65 [D-2]	
<b>3 かみつちの里博物館</b>	所在地 高崎市井出町1514 開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで) 観覧料 大人200円、大・高校生100円、65歳以上と中学生以下は無料 休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、12月28日～1月4日、臨時休館日あり	<a href="#">MAP</a>	027-373-8880	P.65 [C-2]	
<b>4 高崎市観音塚考古資料館</b>	所在地 高崎市八幡町800-144 開館時間 9:00～16:00 観覧料 大人100円、大・高校生80円、65歳以上と中学生以下は無料 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、12月28日～1月4日、臨時休館日あり	<a href="#">MAP</a>	027-343-2256	P.65 [C-2]	
<b>5 多胡碑記念館</b>	所在地 高崎市吉井町1085 開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで) 観覧料 大人200円、大学生100円、65歳以上と高校生以下は無料 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、12月28日～1月4日	<a href="#">MAP</a>	027-387-4928	P.65 [C-3]	
<b>6 史跡上野園分館のガイダンス施設・上野園分館史</b>	所在地 高崎市上野園250-1 開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで) 観覧料 無料 休館日 12月29日～1月3日	<a href="#">MAP</a>	027-372-6767	P.64 [B-3]	
<b>7 藤岡歴史館</b>	所在地 藤岡市白石1291-1 開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで) 観覧料 常設展示は無料、企画展示は有料になる場合有り 休館日 年末年始	<a href="#">MAP</a>	0274-22-6999	P.65 [D-3]	
<b>8 岩宿博物館</b>	所在地 みどり市笠懸町阿左美1790-1 開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで) 観覧料 一般310円、高校生200円、小・中学生100円 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、12月28日～1月4日、臨時休館日あり	<a href="#">MAP</a>	0277-76-1701	P.67 [A-3]	
<b>9 前橋市粕川歴史民俗資料館</b>	所在地 前橋市粕川西園48-1 開館時間 10:00～16:00 観覧料 月・火曜日(祝日の場合は翌日)、12/28～1/4	<a href="#">MAP</a>	027-230-6388	P.64 [D-3]	
<b>10 大塚はにわ館 (大室公園東側)</b>	所在地 前橋市大室町2510 (大室公園東側) 開館時間 10:00～16:00 観覧料 月・火曜日(祝日の場合は翌日)、12/28～1/4	<a href="#">MAP</a>	027-280-6511	P.64 [D-3]	
<b>11 前橋市総社歴史資料館</b>	所在地 前橋市総社町総社1584-1 開館時間 9:00～16:00 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、12/30～1/3、臨時休館日有り	<a href="#">MAP</a>	027-212-2558	P.64 [B-3]	
<b>12 相川考古館</b>	所在地 伊勢崎市三光町6-10 開館時間 9:00～16:30 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、12/30～1/3、臨時休館日有り	<a href="#">MAP</a>	0270-25-0082	P.64 [C-4]	
<b>13 伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館</b>	所在地 伊勢崎市西久保町2-98 開館時間 9:00～17:00 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、臨時休館日有り	<a href="#">MAP</a>	0270-63-0030	P.64 [D-3]	
<b>14 渋川市赤城歴史資料館</b>	所在地 渋川市北碓町勝保沢110 開館時間 9:00～17:00 観覧料 月・火曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌平日、12/28～1/4	<a href="#">MAP</a>	0279-56-8967	P.64 [B-2]	
<b>15 渋川市北碓歴史資料館</b>	所在地 渋川市北碓町真壁246-1 開館時間 9:00～17:00 観覧料 月・火曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌平日、12/28～1/4	<a href="#">MAP</a>	0279-52-4094	P.64 [B-2]	
<b>16 橋本川耳飾り館</b> (橋本の耳飾りと暮らし)	所在地 北群馬郡橋本村山子田1912 開館時間 9:00～17:00 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)	<a href="#">MAP</a>	0279-54-1133	P.64 [A-2]	
<b>17 玉村町歴史資料館</b>	所在地 佐波郡玉村町古池福325 開館時間 10:00～16:00 観覧料 月・火曜日、祝日、年末年始	<a href="#">MAP</a>	0270-30-6180	P.64 [C-4]	
<b>18 高崎市橋本歴史民俗資料館</b>	所在地 高崎市橋本玉川町138-1 開館時間 9:30～16:00 観覧料 火曜日、祝日の翌日、12/28～1/4	<a href="#">MAP</a>	027-374-9761	P.65 [B-1]	
<b>19 高崎市吉井郷土資料館</b>	所在地 高崎市吉井町吉井285 開館時間 9:30～16:30 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、12/28～1/4	<a href="#">MAP</a>	027-387-5235	P.65 [C-3]	
<b>20 高崎市歴史民俗資料館</b>	所在地 高崎市上野町1058 開館時間 9:00～16:00 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、12/28～1/4	<a href="#">MAP</a>	027-352-1261	P.65 [D-2]	
<b>21 富岡市立美術博物館・郷土・郷土記念美術館</b>	所在地 富岡市黒川351-1 開館時間 9:30～17:00 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始	<a href="#">MAP</a>	0274-62-6200	P.65 [B-3]	
<b>22 安中市学習の森 ふるさと学習館</b>	所在地 安中市上間仁田951 開館時間 9:00～17:00 観覧料 火曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始	<a href="#">MAP</a>	027-382-7622	P.65 [C-2]	
<b>23 甘楽町歴史民俗資料館</b>	所在地 甘楽郡甘楽町大字1丁目852-1 開館時間 9:00～16:30 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、12/29～1/3	<a href="#">MAP</a>	0274-74-5957	P.65 [C-3]	
<b>24 中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」</b>	所在地 吾妻郡中之条町大字中之条947-1 開館時間 9:00～17:00 観覧料 木曜日 12/27～1/5	<a href="#">MAP</a>	0279-75-1922	P.66 [C-2]	
<b>25 嬭恋郷土資料館</b>	所在地 吾妻郡嬭恋町藤原494 開館時間 9:30～16:30 観覧料 水曜日(祝日の場合は翌日)、7～8月は無休、12/27～1/4	<a href="#">MAP</a>	0279-97-3405	P.66 [B-2]	
<b>26 川場村歴史民俗資料館</b>	所在地 利根郡川場村天神1122 開館時間 9:00～17:00 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、11～3月は16時間閉	<a href="#">MAP</a>	0278-52-2115	P.66 [B-5]	
<b>27 みなかみ町日夜野郷土歴史資料館</b>	所在地 利根郡みなかみ町日夜野1814-1 開館時間 9:00～16:00 観覧料 月・金曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始	<a href="#">MAP</a>	0278-62-3088	P.66 [B-5]	
<b>28 相澤忠洋記念館</b>	所在地 桐生市新里町泉沢537 開館時間 10:00～17:00 観覧料 土曜日	<a href="#">MAP</a>	0277-74-3342	P.67 [A-2]	
<b>29 桐生市黒保根歴史民俗資料館</b>	所在地 桐生市黒保根水沼2175 開館時間 10:00～16:00 観覧料 月・日曜日、祝日 12/28～1/4	<a href="#">MAP</a>	0277-96-2501	P.67 [A-2]	
<b>30 太田市立新田荘歴史資料館</b>	所在地 太田市世田町3113-9 開館時間 9:30～17:00 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、12/29～1/3、臨時休館日有り	<a href="#">MAP</a>	0276-52-2215	P.67 [A-4]	
<b>31 館林市立資料館 (第一資料館)</b>	所在地 館林市城町3-1 開館時間 9:00～17:00 観覧料 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始、月末最終平日	<a href="#">MAP</a>	0276-74-4111	P.67 [C-4]	
<b>32 みどり市大岡々博物館 (コノドント)</b>	所在地 みどり市大岡々町大岡々1030 開館時間 9:00～17:00 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、12/28～1/4、臨時休館日有り	<a href="#">MAP</a>	0277-73-4123	P.67 [A-2]	
<b>33 大泉町文化むら輝蔵文化財展示室</b>	所在地 邑楽郡大泉町朝日5-24-1 開館時間 9:00～17:00 観覧料 月曜日(祝日の場合は翌日)、12/28～1/4、臨時休館日有り	<a href="#">MAP</a>	0276-63-7733	P.67 [B-4]	

※掲載内容は2021年3月現在の情報です。※開館状況は、各施設HPで確認するか直接お問い合わせください。

Table of archaeological sites in Nara Prefecture. Columns include No., Shape, Name, Period, Location, MAP, and Designated Date. Sites listed include 二子山古墳, 天川 二子山古墳, 八幡山古墳, 山上古墳, 大鷲寺古墳, 浅間山古墳, 女体山古墳, 円福寺茶臼山古墳, 鏡手塚古墳, 塚塚古墳, 荒草山古墳, 虚空藏塚古墳, 中ノ塚古墳, 高塚古墳, しども塚古墳, 菟田穴塚群・葦林古墳・楳ノ塚古墳, 安楽寺古墳, 皇子塚古墳, 平井地区1号古墳, 後第3号墳, 下田上段中1号墳, 葦倉古墳, 中塚古墳, 二子山古墳1・2号墳, 北山古墳, 西山古墳, 岡山古墳, 塚塚古墳, 鏡手塚古墳, and 古海岸前1号古墳.

Table of archaeological sites in Osaka Prefecture. Columns include No., Shape, Name, Name (yomi), Period, Location, MAP, and Designated Date. Sites listed include 新田塚古墳, オリーブ古墳, 塚塚古墳, 九十九山古墳, 新山古墳, 白山古墳, 龜塚山古墳, 古敷古墳, 今井神社古墳, 稲荷塚古墳, 塚塚古墳, 玉山古墳, 下山古墳, 五代大塚古墳, 遠見山古墳, 荒子杉山古墳, 鶴ヶ塚古墳, 十三所古墳, 聖霊神社古墳, 丸塚山古墳, 塚塚古墳, 一ノ岡古墳, 赤浜赤白山古墳, いなり塚古墳, 金井古墳, 湯見山古墳, 滝沢古墳, 南下 A 号古墳, 南下 B 号古墳, 南下古墳群, 稲塚古墳, 粟ノ木山古墳, 多岐麻呂冢群, 將軍塚古墳, 三島塚古墳, 思行寺古墳, 蘇我冢古墳 (北史古墳), 行人塚古墳, 塚塚古墳, 八幡塚 A 号及び B 号石塚, 葦塚古墳, 小塚の穴塚跡, 穴六塚, 下芝各古墳群, 本塚塚古墳群, 岩倉山古墳, 上小塚稲荷山古墳, 浜尻天台山古墳, 下山山古墳, 山名古墳群, 神塚古墳群, and 八幡二子塚古墳.

番号	形状	名称	よみがな	世紀	所在地	MAP	指定年月日
84	●	足門寺屋敷古墳群	あしどてらやしきこふんぐん	7	高崎市足門町 1417-18 他	P.65 [C-2]	H17.11.25
85	●	お春古墳	おはるこふん	6	高崎市足門町 1367	P.65 [C-2]	H17.11.25
86	●(注1)	喜塚古墳	きづかこふん	7	藤岡市白石字中樫	P.65 [D-3]	S43.4.23
87	●	戸塚神社古墳	とづかじんじゃこふん	6	藤岡市上戸塚字熊野 363	P.65 [D-3]	S45.4.15
88	●	平地神社古墳	へいぢしじやこふん	6	藤岡市中大塚字宮西 1203	P.65 [D-3]	S45.4.15
89	●	堀越塚古墳	ほりこしづかこふん	7	藤岡市白石字溝	P.65 [D-3]	S45.4.15
90	●(注1)	霊符殿古墳	れいふでんこふん	6	藤岡市藤岡字藤岡 461-8	P.65 [D-3]	S45.4.15
91	●	陣防古墳	じんぷうこふん	6	藤岡市藤岡字東裏 495	P.65 [D-3]	S49.3.26
92	●	駒塚稲荷古墳	こまづかいなりこふん	不明	藤岡市岡之郷 835-2	P.65 [D-3]	S60.4.1
93	●	北山茶臼山古墳	きたやまぢうすやこふん	4	富岡市南後宮 99-1 他	P.65 [C-3]	S46.4.10
94	●	太子塚古墳	たいぢうづかこふん	6	富岡市一宮 245-1 他	P.65 [C-3]	S49.5.13
95	●	堂山稲荷古墳	どうやまいなりこふん	6	富岡市一宮 115 他	P.65 [B-3]	S59.2.29
96	●	一ノ宮4号古墳	いちのみや4ごうこふん	6	富岡市田島 343-2 (県合同庁舎)	P.65 [B-3]	H13.4.13
97	●	野嵐天王塚古墳	7	安中市野路字家 569	P.65 [C-2]	S38.9.27	
98	●	万福原古墳(秋田12号墳)	まんぷくはらこふん	7	安中市下秋田字万福 2097-2	P.65 [C-2]	H12.9.27
99	●	天王塚古墳	てんやづかこふん	5	甘藷郡甘藷町海島 1277-1、1277-2	P.65 [C-3]	S52.6.13
100	●(確定)	黒河古墳群の塚	くろかわこふんぐんのかぶら	7	甘藷郡甘藷町河見 1865-2	P.65 [C-3]	S63.12.6
101	●	金比羅山古墳	ことひらこふん	6	甘藷郡甘藷町小川 713	P.65 [C-3]	H3.1.28
102	●	磯塚古墳	いそづかこふん	6	吾妻郡中之条町字南 1057-1	P.66 [C-1]	S54.3.8
103	●	小川古墳群	おがわこふんぐん	不明	吾妻郡中之条町中之条 291 他	P.66 [C-2]	S63.3.26
104	●	小塚古墳	こづかこふん	不明	吾妻郡中之条町横尾 1305	P.66 [C-2]	S63.3.26
105	●	笛吹塚古墳	ふえきづかこふん	不明	吾妻郡中之条町山田 134-2	P.66 [C-2]	S63.3.26
106	●	石の塚古墳	いしのづかこふん	5	吾妻郡中之条町大田中之条町 400-1	P.66 [C-2]	H6.1.21
107	●	四戸の古墳群	しよのこふんぐん	6	吾妻郡吾妻町三島字四戸 77 他	P.66 [C-2]	S47.3.1
108	●	秋塚9号古墳	あきづかごうこふん	7	沼田市秋塚町 793	P.66 [B-5]	H11.2.1
109	●(注1)	岩下清水古墳群	いわしたしみずこふんぐん	6	利根郡昭和村1(藤字岩下・字清水)	P.66 [B-5]	S54.3.22
110	●	十土塚古墳	とじつづかこふん	7	利根郡昭和村系井 340	P.66 [B-5]	S54.3.22
111	●	轟下古墳群	とろしたこふんぐん	7	利根郡昭和村轟下字御門	P.66 [B-5]	S54.3.22
112	●(確定)	八日市古墳群	やちいちこふんぐん	7	利根郡昭和村系井八日市	P.66 [B-5]	S54.3.22
113	●	障屋古墳	かじやこふん	7	利根郡昭和村川原 61-7	P.66 [B-5]	H9.3.24
114	●	塚原古墳群	つかはらこふんぐん	6	利根郡みなみかみ町月夜野字上津 335-1 他	P.66 [B-5]	S53.4.1
115	●	小林の天神古墳	こばやしらのてんじんこふん	6	桐生市新里町小林 60-1	P.67 [A-2]	S46.10.1
116	●	長者塚古墳	ちやうぢやづかこふん	7	桐生市新里町岡 194	P.67 [A-2]	S57.10.1
117	●	窟穴山古墳	いほやまこふん	7	太田市東今泉町 752	P.67 [B-3]	S50.9.22
118	●	八幡山古墳	はちまんやまこふん	4	太田市大島町 1129	P.67 [B-4]	S56.12.23
119	●	稲荷山古墳	いなりやまこふん	6	太田市市場町 488-1	P.67 [B-3]	S61.2.1
120	●	寺山古墳	てらやまこふん	4	太田市強戸町 162-1の一部	P.67 [B-3]	H23.7.21
121	●	山王山古墳	さんのおやまこふん	6	藤林市当郷町 1975-2	P.67 [C-4]	S52.8.30
122	●	天神山古墳群3号墳	てんじんやまこふんぐんのかうごうば	6	みどり市笠懸町西鹿田字天神山 139	P.67 [A-3]	S62.4.1
123	●	赤城塚古墳	あかぎづかこふん	4	邑楽郡板倉町西岡字赤城塚 1552	P.67 [D-4]	S44.5.29
124	●	筑波山古墳	つくはたこふん	6	邑楽郡板倉町岩田字風張 2497 他	P.67 [D-4]	S44.5.29
125	●	舟山古墳	ふねやまこふん	6	邑楽郡板倉町岩田字風張 2630 他	P.67 [D-4]	S44.5.29
126	●	稲荷神社古墳	いなりじんじゃこふん	6	邑楽郡板倉町大高嶋字高島 1756	P.67 [D-4]	S50.4.25
127	●	大山古墳	おほおかづかこふん	不明	邑楽郡板倉町大高嶋字高島 1732	P.67 [D-4]	S50.4.25
128	●(確定)	額母子横穴墓群	ぬかのみこしづかづかこふん	7	邑楽郡板倉町海老瀬字額母子 5913 他	P.67 [D-4]	S50.4.25
129	●(確定)	道明山古墳	どうめいやまこふん	6	邑楽郡板倉町岩田字骨積 1540 他	P.67 [D-4]	S50.4.25
130	●(注1)	松ノ木古墳	まつきのこふん	6	邑楽郡板倉町野野字松ノ木 1222 他	P.67 [D-4]	S50.4.25
131	●	江島古墳	えくまこふん	6	邑楽郡明和町上江島 551	P.67 [D-4]	S56.4.7
132	●	城之内古墳	しろのうちにこふん	7	邑楽郡大泉町之内2丁目(城之内公園)	P.67 [B-4]	S54.1.30
133	●(注1)	北谷古墳群5-10-11-12号古墳	きたたにこふんぐんのかうごうば	不明	邑楽郡邑楽町石打 1126	P.67 [C-4]	S63.11.25

●前方後円墳 ●前方後方墳 ●帆立貝式古墳 ●円墳 ●方墳 ●八角形墳 ●五角形墳

画  
像  
提  
供  
  
参  
考  
文  
献

● ColBase (https://colbase.nich.go.jp/) ● 岩宿博物館 ● 群馬県立歴史博物館 ● かみつけの里博物館 ● 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 ● 奈良県明日香村教育委員会 ● 大阪府藤井寺市教育委員会 ● 大阪府教育委員会 ● 千葉県立房総のむら ● 高崎市観音塚考古資料館 ● 藤岡歴史館 ● 相澤忠洋記念館 ● 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 ● 群馬県各市町村教育委員会

●「群馬県史 通史編1 原始古代1」,群馬県史編纂委員会/編,群馬県,1990 ●「群馬県史 資料編3」,群馬県史編纂委員会/編,群馬県,1981 ●「東国の古墳と大和政権」,大家初重/著,吉川弘文館,2002 ●「群馬の遺跡1 旧石器時代」,(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団/編,上毛新聞社,2005 ●「群馬の遺跡2 縄文時代」,(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団/編,上毛新聞社,2005 ●「群馬の遺跡3 弥生時代」,(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団/編,上毛新聞社,2004 ●「群馬の遺跡4 古墳時代1〔古墳〕」,(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団/編,上毛新聞社,2004 ●「群馬の遺跡5 古墳時代2〔集落〕」,(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団/編,上毛新聞社,2005 ●「埴輪群像の考古学」,大阪府立ついで鳥島博物館/編,青木書店,2008 ●「高崎千年物語」,若狭 徹/著,高崎市,2011 ●「列島の考古学 古墳時代」,右島和夫・千葉久/著,河出書房社,2011 ●「季刊考古学別冊 古墳時代毛野の実際」,右島和夫・若狭 徹・内山敏行/編,雄山閣,2011 ●「観音山古墳と東アジア世界へ海を越えた鏡と大塚の縁へ」,群馬県立歴史博物館,1999 ●「東日本の古墳と渡来文化〜海を越える人々とモノ」,松戸市立博物館,2012 ●「群馬県の史跡〔古墳編〕」,群馬県教育委員会文化財保護課/編,群馬県教育委員会,1995 ●「群馬県の史跡〔原始・古代編〕」,群馬県教育委員会,2001 ●「史跡と人物でつづる 群馬の遺跡」,群馬県郷土教材研究会/編著,1979 ●「群馬の古墳を歩く」(みやま文庫201),前原豊・小島敦子/編,2010 ●「古墳への旅〜古代人のタイムカプセル再見〜」,白石太一郎/監・朝日新聞社/編,朝日新聞社,1996 ●「古墳とヤマト政権〜古代国家はいかに形成されたか〜」(文春新書 036),白石太一郎/著,文藝春秋社,1999 ●「群馬県遺跡大辞典」,財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団/編,上毛新聞社,1999 ●「群馬新百科事典」,上毛新聞社,2008 ●大阪府堺市HP ●群馬県埋蔵文化財調査事業団HP ●群馬県各市町村HP ●群馬県・群馬県教育委員会HP

## 東国文化副読本

2021年4月発行  
監修 松島 栄治  
発行 群馬県  
群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会  
企画・編集 群馬県文化振興課  
著作協力 群馬県立歴史博物館,群馬県教育委員会義務教育課,群馬県文化財保護課  
協力 群馬県各市町村教育委員会

○当冊子に掲載している写真は、すべてイメージです。実際とは異なる場合もあります。  
○当冊子に掲載している地図は全て簡略です。正確な地図とは誤差があります。あらかじめご了承ください。  
○掲載している情報は、2021年3月現在の情報です。

東国文化  
ポータルサイトも  
チェックせね!  
QRコード